

令和7年度
白山市子どもの権利に関する
市民意識調査の結果について

白山市教育委員会

目次

1	小中学生対象調査結果	1
	子どもの権利について	2
	今楽しんでいること、がんばっていること	6
	白山市子ども総合相談室の認知度	7
	こまったり悩んだりしたときの相談	8
	いじめ等に関する行動	10
	自分のことについて	15
	居場所について	18
	ヤングケアラーについて	20
2	高校生対象調査結果	27
	子どもの権利について	28
	白山市子ども総合相談室の認知度	31
	今楽しんでいること、がんばっていること	32
	こまったり悩んだりしたときの相談	33
	自分のことについて	35
	居場所について	37
	ヤングケアラーについて	39
3	保護者対象調査結果	45
	子どもの権利について	46
	白山市子ども総合相談室の認知度	49
	子どもが今楽しんでいる、がんばっていると思うこと（小中のみ）	50
	子どもが自分のことについて思っていると考えること（小中のみ）	52
4	資料	
	小中学生アンケート	57
	高校生アンケート	62
	保護者アンケート	67

1 小中学生対象調査結果

調査の概要

(1) 調査の目的

白山市子どもの権利に関する条例をもとに、子どもたちの人権に対する実態と意識を把握し、今後の行動につなげていくこと目的として実施した。

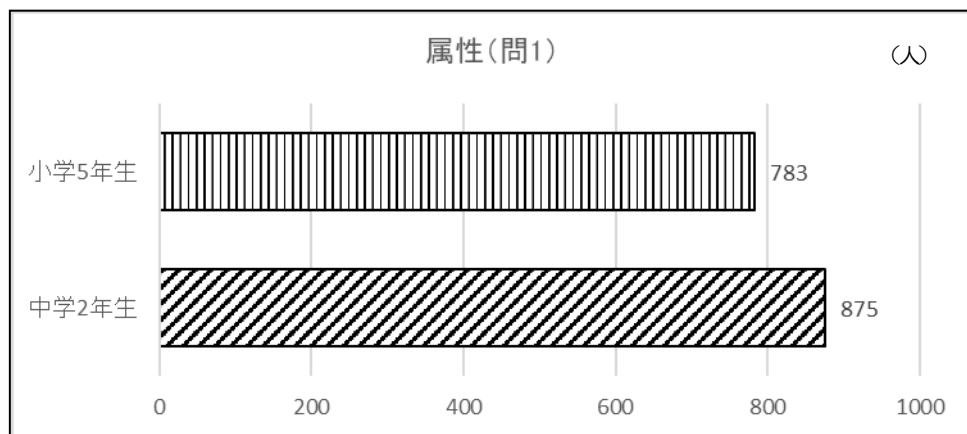
(2) 調査対象及び調査時期について

調査は市内の全小学校（19 校）の 5 年生全員と全中学校（9 校）の 2 年生全員を対象として、令和 7 年 6 月から 7 月にかけて各校で実施した。調査方法は児童・生徒の GIGA 端末を使用し、指定 URL にアクセスして回答を得た。

調査の結果

属性（問 1） 学年

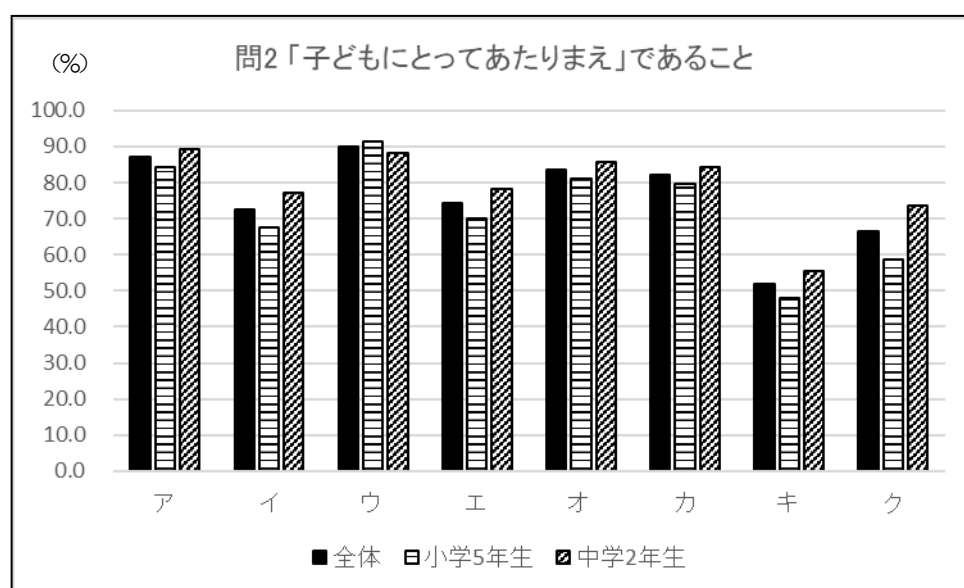
	全体 (人)	小学 5 年生 (人)	中学 2 年生 (人)
全体	1,658	783	875



問2 「子どもにとってあたりまえ」であると思うもの

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 食事をする	1,443	87.0	661	84.4	782	89.4
イ あたたかいふとんでねる	1,204	72.6	529	67.6	675	77.1
ウ 家族ですごく	1,489	89.8	716	91.4	773	88.3
エ ほっとできるところがある	1,232	74.3	549	70.1	683	78.1
オ 友だちと遊ぶ	1,385	83.5	636	81.2	749	85.6
カ 勉強する	1,360	82.0	623	79.6	737	84.2
キ 地域の行事に参加する	862	52.0	377	48.1	485	55.4
ク 思っていることを言う	1,103	66.5	459	58.6	644	73.6

いずれの項目も「子どもにとってあたりまえ」のものである。小学5年生、中学2年生ともに「食事をする」「家族ですごく」「友だちと遊ぶ」の項目は8割以上である。一方、「あたりまえ」と思われていないものとして、「地域の行事に参加する」(回答率 52.0%)、「思っていることを言う」(66.5%)などが挙げられる。



回答項目数の割合

	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個
小5	32.1%	16.0%	14.7%	11.4%	8.8%	5.9%	3.8%	7.4%
中2	46.9%	12.8%	11.4%	8.7%	7.2%	4.8%	3.9%	4.3%
全体	39.9%	14.3%	13.0%	10.0%	8.0%	5.3%	3.9%	5.8%

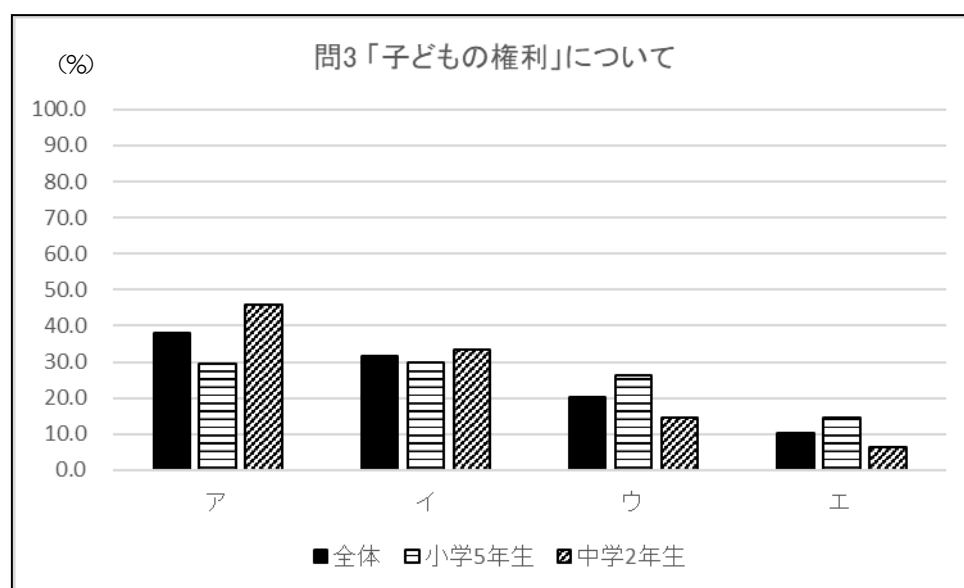
6個以上の項目について回答をしている割合は、小学5年生で62.8%、中学2年生で71.1%、全体で67.2%であった。いずれの項目も「子どもにとってあたりまえ」であることから、「子どもの権利」の認知度と合わせて高めていく必要がある。

問3 子どもに「権利があること」の認知度

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 知っている	631	38.1	231	29.5	400	45.7
イ だいたい知っている	525	31.7	234	29.9	291	33.3
ウ 聞いたことがある	333	20.1	205	26.2	128	14.6
エ 知らない	169	10.2	113	14.4	56	6.4

「子どもの権利」の認知度について、「知っている」「だいたい知っている」を合わせた割合は、小学5年生で59.4%、中学2年生では79.0%となっている。

また、問2「『子どもにとってあたりまえ』であると思うもの」との相関をみると（下表参照）、子どもの権利について「知らない」と回答している小学5年生の45.1%、中学2年生の59.0%が「子どもにとってあたりまえ」とする項目を6個以上で回答していることから、「子どもにとってあたりまえ」の各項目と「子どもの権利」の名称が必ずしも一致しているとは言えない状況がうかがえる。



(問2との相関)

小5	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個
ア 知っている	44.2%	15.6%	13.9%	10.0%	4.3%	4.3%	2.2%	5.6%
イ だいたい知っている	30.8%	16.2%	16.2%	12.0%	10.7%	2.6%	4.3%	7.3%
ウ 聞いたことがある	28.8%	15.6%	15.1%	9.8%	11.2%	9.8%	4.9%	4.9%
エ 知らない	15.9%	16.8%	12.4%	15.9%	9.7%	8.8%	4.4%	15.9%

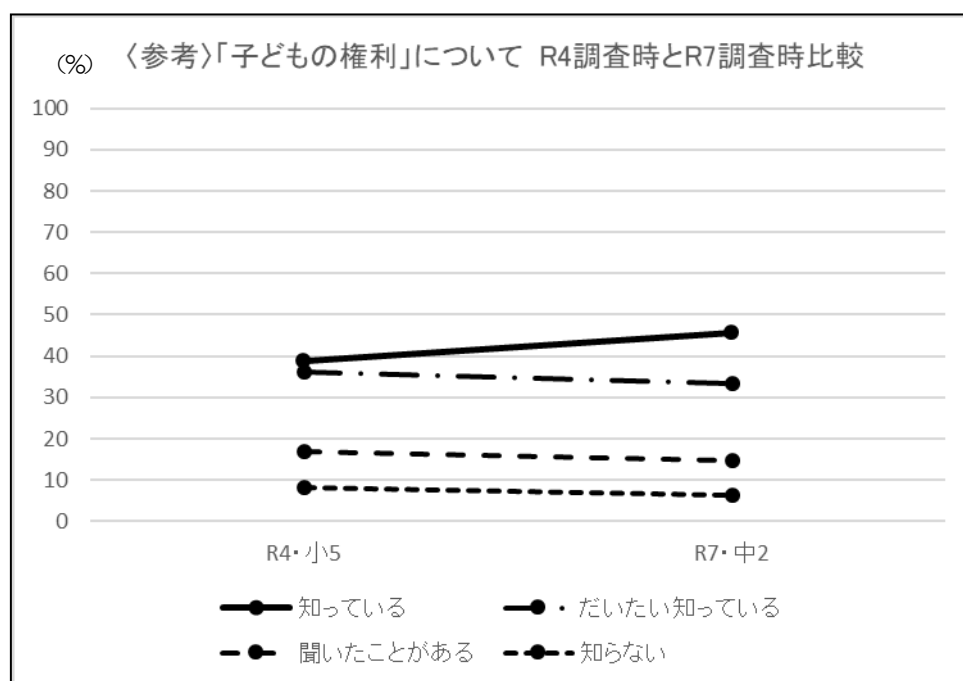
中2	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個
ア 知っている	57.0%	12.3%	9.0%	7.5%	5.3%	3.3%	2.8%	3.0%
イ だいたい知っている	41.6%	13.4%	12.0%	8.2%	7.9%	6.5%	5.5%	4.8%
ウ 聞いたことがある	34.4%	12.5%	16.4%	11.7%	10.2%	4.7%	4.7%	5.5%
エ 知らない	30.4%	14.3%	14.3%	12.5%	10.7%	7.1%	1.8%	8.9%

〈参考〉 子どもに「権利があること」の認知度

(令和4年度調査の小学5年生と令和7年度調査の中学2年生との比較)

	R4調査小5 (%)	R7調査中2 (%)	比較(R7-R4) (%)
ア 知っている	38.8	45.7	6.9
イ だいたい知っている	36.1	33.3	△ 2.8
ウ 聞いたことがある	16.9	14.6	△ 2.3
エ 知らない	8.2	6.4	△ 1.8

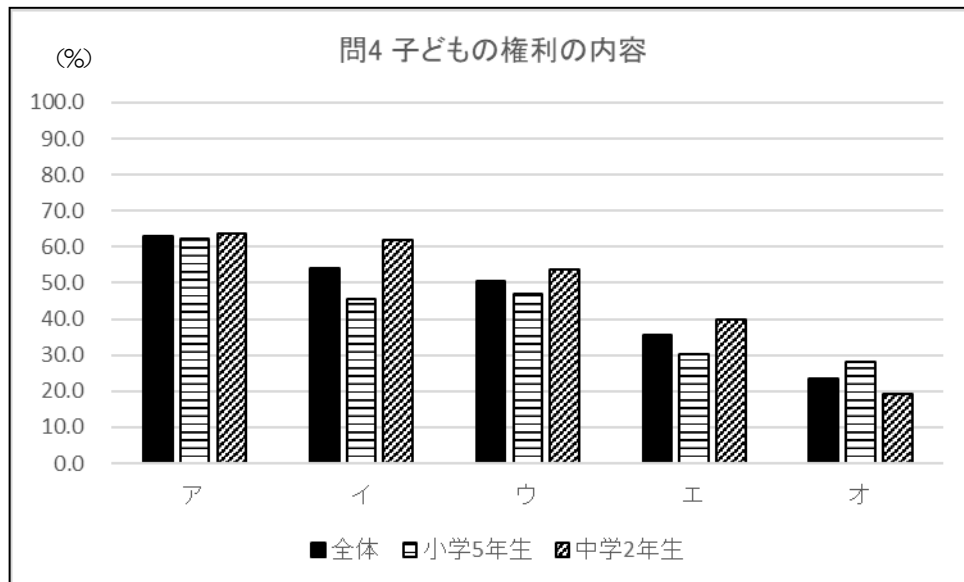
今年度の調査の対象である中学2年生は令和4年度(令和4年12月)に同項目について回答をしている。3年を経て「子どもの権利」の認知度がどのように推移したかを比較する。子どもに「権利があること」について、「知っている」割合は6.9ポイント増加している。「だいたい知っている」「聞いたことがある」「知らない」はいずれも減少していることから、子どもの権利について学習する中で認知度が高まっていると考える。



問4 子どもの権利の内容の理解度

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 安心して生きる権利	1,045	63.0	487	62.2	558	63.8
イ 守られる権利	899	54.2	356	45.5	543	62.1
ウ よりよく育つ権利	838	50.5	367	46.9	471	53.8
エ 参加する権利	588	35.5	238	30.4	350	40.0
オ 知らない	388	23.4	220	28.1	168	19.2

「子どもの権利」の内容の理解度について、最も多かったもので「安心して生きる権利」についてであったが、小学5年生で62.2%、中学2年生で63.8%と6割程にとどまっている。回答の割合が低かったものは「参加する権利」で、小学5年生で30.4%、中学2年生で40.0%となっている。



問5 今楽しんでいること、がんばっていること

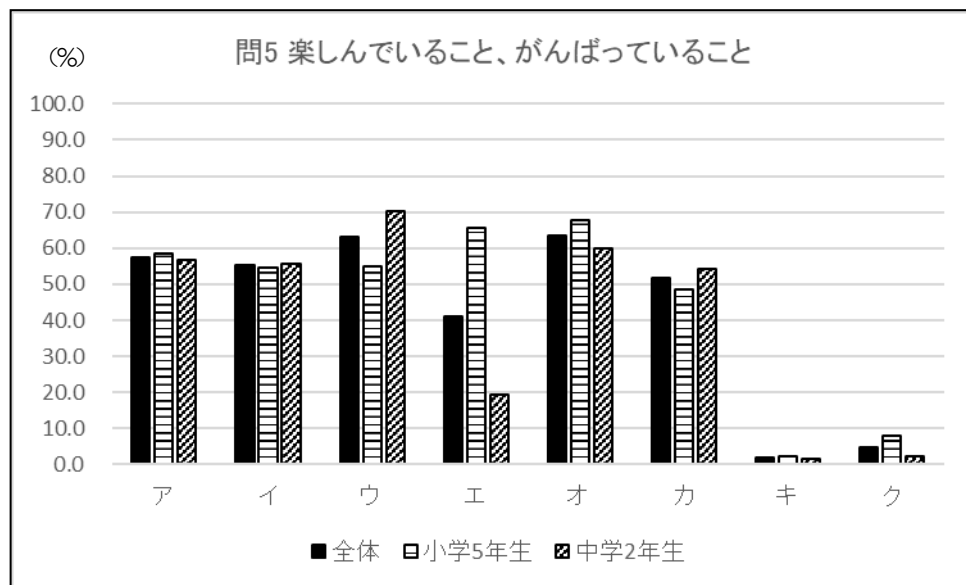
	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 勉強	954	57.5	457	58.4	497	56.8
イ 趣味	915	55.2	428	54.7	487	55.7
ウ クラブ活動、部活動	1,046	63.1	431	55.0	615	70.3
エ 習いごと	683	41.2	514	65.6	169	19.3
オ 友だちとの遊び	1,054	63.6	530	67.7	524	59.9
カ 動画、SNS、オンラインゲーム	857	51.7	381	48.7	476	54.4
キ 楽しんでいること、がんばっていることはない	31	1.9	18	2.3	13	1.5
ク その他	82	4.9	62	7.9	20	2.3

小学5年生で多く選択されたものが「友だちとの遊びや活動」「習いごと」であり、中学2年生で多く選択されたものが「クラブ活動、部活動」「友だちとの遊びや活動」であった。

小学5年生のときに比べて中学2年生で選択が顕著に減少しているものとして「習いごと」(46.3ポイントの減少)が挙げられる。同様に中学2年生で選択が顕著に増加しているものとして「クラブ活動、部活動」(15.3ポイントの増加)が挙げられる。

「楽しんでいること、がんばっていることはない」とする回答は、小学5年生は2.3%、中学2年生は1.5%であった。

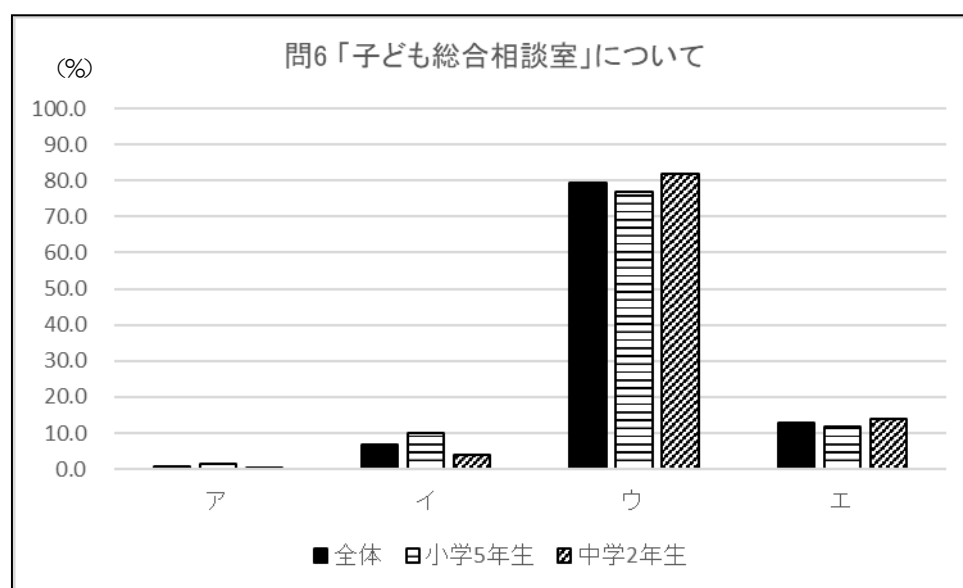
その他に記入された回答として、ダンスやイラストなどの「趣味」(小5; 25件、中2; 4件)、「学校の授業」(小5; 8件、中2; 2件)、「家族と過ごすこと」(小5; 7件、中2; 4件)などがある。



問6 白山市子ども総合相談室の認知度

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 知っていて利用したこともある	14	0.8	11	1.4	3	0.3
イ 知っていて利用したいと思ったことがある	114	6.9	78	10.0	36	4.1
ウ 名前を知っている	1,318	79.5	603	77.0	715	81.7
エ 知らない	212	12.8	91	11.6	121	13.8

白山市子ども総合相談室の認知度について、「知っていて利用したこともある」「知っていて利用したいと思ったことがある」を合わせた割合は、小学5年生で11.4%、中学2年生では4.4%となっている。「知らない」割合は、小学5年生で11.6%、中学2年生で13.8%となっていることから、「知っている」割合は、小学5年生で88.4%、中学2年生で86.2%、全体で87.2%となっている。

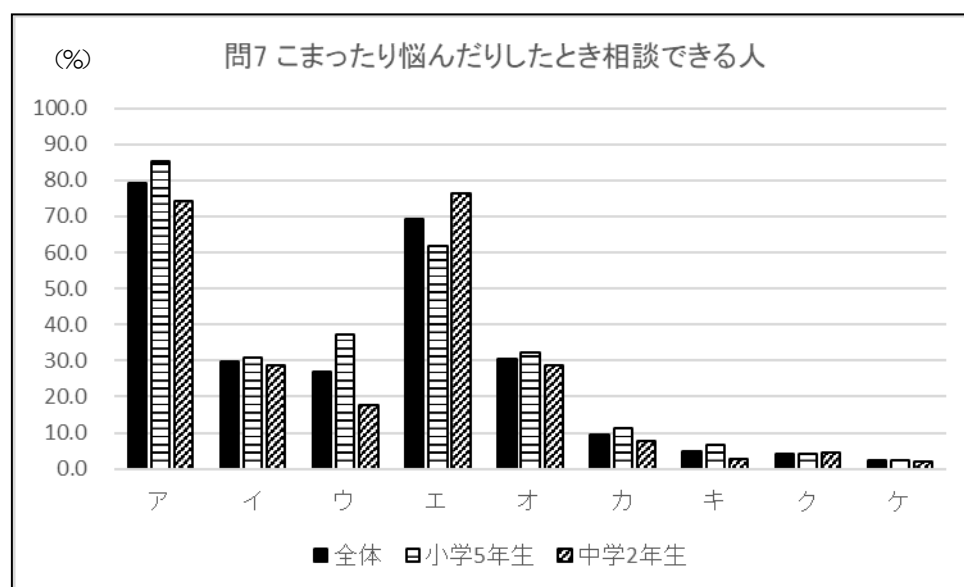


問7 こまったり悩んだりしたときに相談できる人

	全体 n=1,658 (人) (%)		小5 n= 783 (人) (%)		中2 n= 875 (人) (%)	
ア 親	1,316	79.4	667	85.2	649	74.2
イ 兄弟姉妹	492	29.7	241	30.8	251	28.7
ウ 祖父母	447	27.0	292	37.3	155	17.7
エ 友だち	1,151	69.4	484	61.8	667	76.2
オ 学校内の先生、スクールカウンセラー	505	30.5	254	32.4	251	28.7
カ 学習塾や習いごとの先生	156	9.4	89	11.4	67	7.7
キ 電話相談など話を聞いてくれる相談員	78	4.7	53	6.8	25	2.9
ク 相談できる人はいない	70	4.2	32	4.1	38	4.3
ケ その他	38	2.3	20	2.6	18	2.1

こまったり悩んだりしたときに相談できる人として、小学5年生では「親」が85.2%で最も多く、次いで「友だち」が61.8%となっている。中学2年生では「友だち」が76.2%、「親」が74.2%となっている。

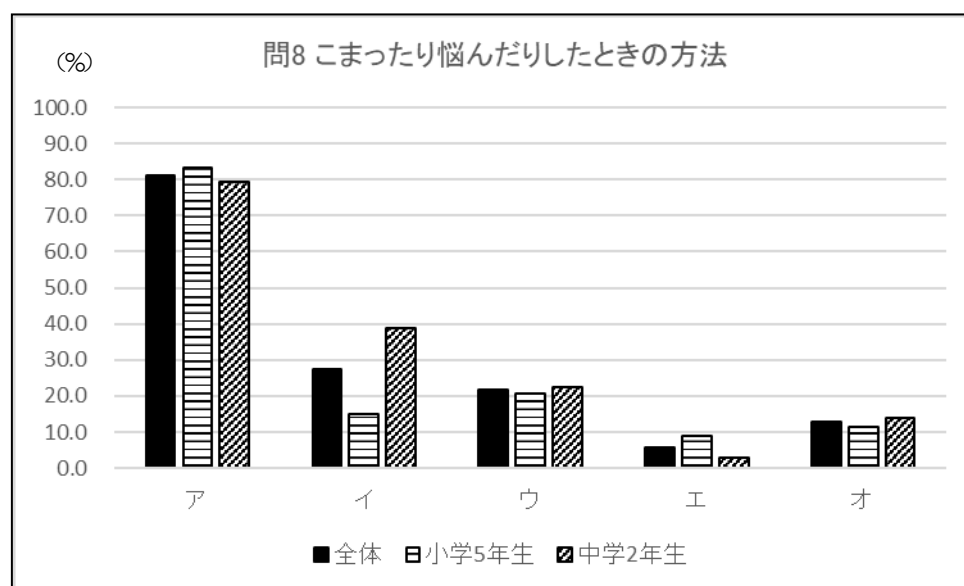
その他に記入された回答として、「いところ」(小5; 6件、中2; 4件)、「おじ・おば」(小5; 4件)、「児童館の人など」(小5; 3件、中2; 4件) などがある。



問8 こまったり悩んだりしたときに相談する方法

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 直接顔を合わせて話す	1,346	81.2	651	83.1	695	79.4
イ メール、SNS	455	27.4	116	14.8	339	38.7
ウ 電話	358	21.6	161	20.6	197	22.5
エ 手紙、はがき	95	5.7	71	9.1	24	2.7
オ 誰にも相談しない	211	12.7	90	11.5	121	13.8

こまったり悩んだりしたときの相談の方法として、小学5年生、中学2年生とも「直接顔を合わせて話す」が最も多く、それぞれ83.1%と79.4%であった。小・中学生で差があったものとして「メール、SNS」が挙げられ、小学5年生の14.8%に対し、中学2年生で38.7%となっている。



問9 この1年間で友だちとの間での行動

①仲間はずれ、集団による無視

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア されたことがある	115	6.9	80	10.2	35	4.0
イ したことがある	4	0.2	1	0.1	3	0.3
ウ されたこともしたこともある	37	2.2	20	2.6	17	1.9
エ どちらもない	1,502	90.6	682	87.1	820	93.7

②叩かれたり蹴られたりすること

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア されたことがある	82	4.9	63	8.0	19	2.2
イ したことがある	7	0.4	6	0.8	1	0.1
ウ されたこともしたこともある	61	3.7	41	5.2	20	2.3
エ どちらもない	1,508	91.0	673	86.0	835	95.4

③お金や物を隠されたりすること

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア されたことがある	54	3.3	39	5.0	15	1.7
イ したことがある	2	0.1	1	0.1	1	0.1
ウ されたこともしたこともある	11	0.7	6	0.8	5	0.6
エ どちらもない	1,591	96.0	737	94.1	854	97.6

④嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア されたことがある	49	3.0	37	4.7	12	1.4
イ したことがある	2	0.1	2	0.3	0	0.0
ウ されたこともしたこともある	10	0.6	3	0.4	7	0.8
エ どちらもない	1,597	96.3	741	94.6	856	97.8

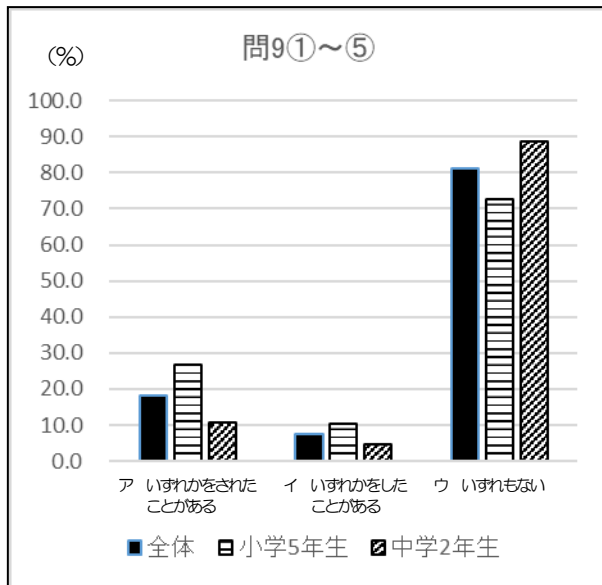
⑤パソコンやスマートフォンでの悪口

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア されたことがある	40	2.4	25	3.2	15	1.7
イ したことがある	1	0.1	1	0.1	0	0.0
ウ されたこともしたこともある	21	1.3	12	1.5	9	1.0
エ どちらもない	1,596	96.3	745	95.1	851	97.3

①～⑤全体

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア ①～⑤のいずれかをされたことがある	303	18.3	208	26.6	95	10.9
イ ①～⑤のいずれかをしたことがある	122	7.4	82	10.5	40	4.6
ウ いずれもされたこともしたこともない	1,347	81.2	570	72.8	777	88.8

①～⑤全体で「いずれかをされたことがある」割合は、小学5年生で26.6%、中学2年生で10.9%である。「いずれもされたこともしたこともない」割合は、小学5年生で72.8%、中学2年生で88.8%であった。

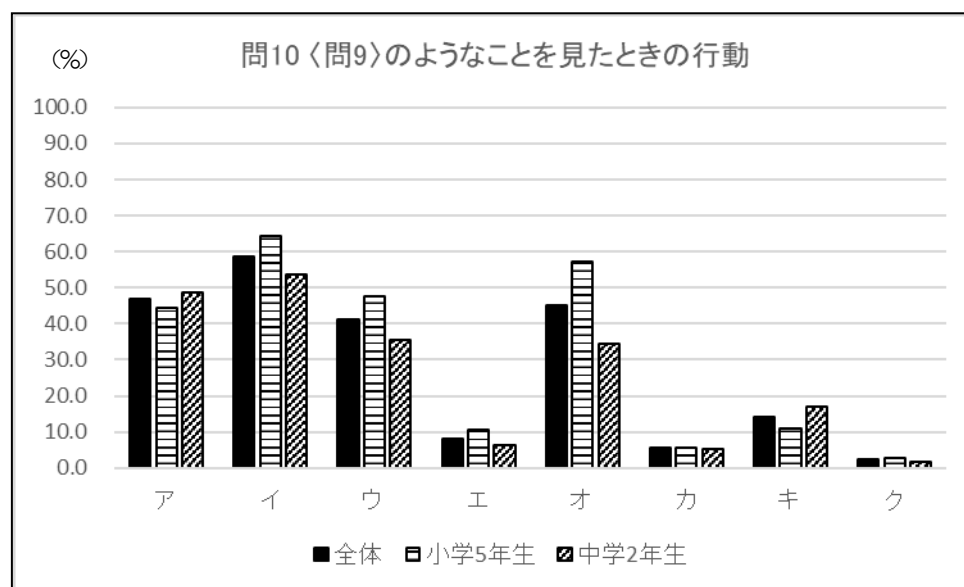


問10 〈問9〉のようなことを見たときの行動

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア ほかの友だちに知らせる	776	46.8	349	44.6	427	48.8
イ 学校の先生に相談する	972	58.6	504	64.4	468	53.5
ウ 自分の家族に相談する	683	41.2	372	47.5	311	35.5
エ 悩みごとの専門の人に相談する	136	8.2	82	10.5	54	6.2
オ やめるように言う	748	45.1	448	57.2	300	34.3
カ しかえしをする	92	5.5	45	5.7	47	5.4
キ なにもしない・放っておく	233	14.1	85	10.9	148	16.9
ク その他	39	2.4	23	2.9	16	1.8

問9のようなことを見た場合にとる行動として、「学校の先生に相談する」が小学5年生で64.4%、中学2年生で53.5%であり、最も多かった。続いて多かった回答は小学5年生では「やめるように言う」で57.2%、中学2年生は「ほかの友だちに知らせる」で48.8%であった。中学2年生では小学5年生に比べて「ほかの友だちに知らせる」以外の助ける行動について減少している。「なにもしない」といった関わりをもたないような行動が、小学5年生では10.9%であるのに対し、中学2年生では16.9%に増加している。

その他に記入された回答として、「いじめられている人に寄り添う」(小5; 5件、中2; 7件)、「いじめられている人に話をする」(小5; 5件)、「わからない」(中2; 2件) などがある。

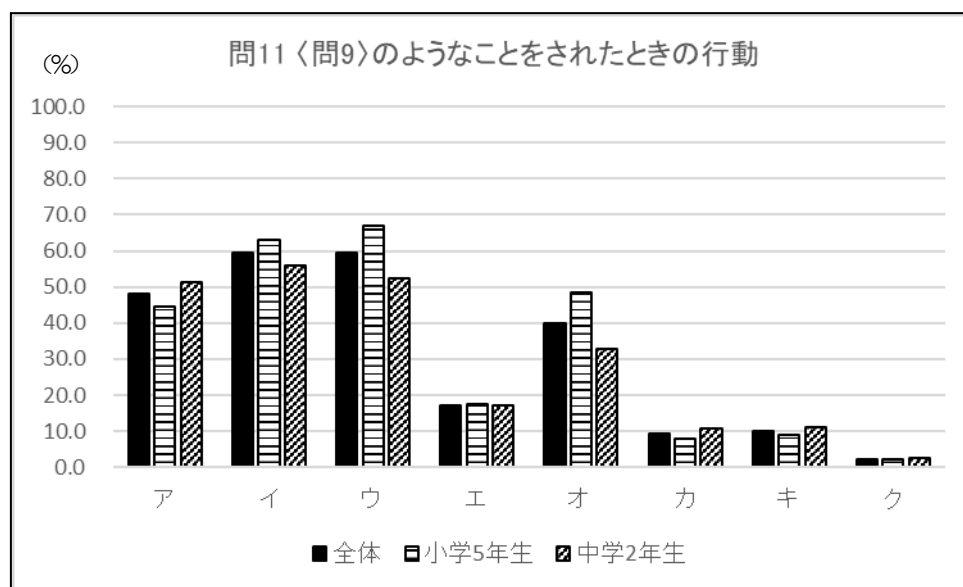


問11 あなたは〈問9〉のようなことをされたときの行動

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア ほかの友だちに相談する	798	48.1	350	44.7	448	51.2
イ 学校の先生に相談する	985	59.4	494	63.1	491	56.1
ウ 自分の家族に相談する	984	59.3	525	67.0	459	52.5
エ 悩みごとの専門の人に相談する	285	17.2	136	17.4	149	17.0
オ やめるように言う	665	40.1	379	48.4	286	32.7
カ しかえしをする	157	9.5	63	8.0	94	10.7
キ だれにも相談せずにがまんする	166	10.0	70	8.9	96	11.0
ク その他	39	2.4	17	2.2	22	2.5

自分自身が問9のようなことをされた場合にとる行動は、小学5年生では「自分の家族に相談する」が67.0%で最も多い。中学2年生では「学校の先生に相談する」が56.1%で最も多く、同じような割合で「自分の家族に相談する」が52.5%、「ほかの友だちに相談する」が51.2%で続いている。「やめるように言う」は、小学5年生で48.4%、中学2年生で32.7%である。

その他に記入された回答として、「あまり気にしない・相手にしない」(小5; 7件、中2; 13件)、「いじめている人に話をする」(小5; 3件)などがある。



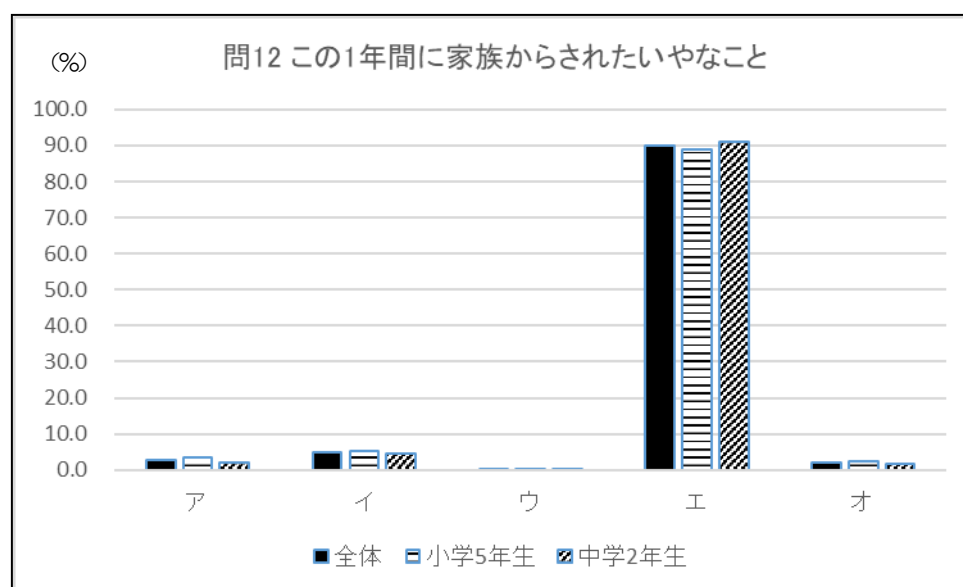
問12 この1年間に家族からされたいやなこと

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア たたく、ける、なぐるなどの暴力をふるわれる	44	2.7	26	3.3	18	2.1
イ 心を傷つけられる言葉をいわれる	81	4.9	42	5.4	39	4.5
ウ 食べるものをあたえられなかったり、ほったらかしにされる	7	0.4	3	0.4	4	0.5
エ いやなことをされたことはない	1,492	90.0	697	89.0	795	90.9
オ その他	32	1.9	18	2.3	14	1.6

親や祖父母からされた行為についての質問で、「たたく、ける、なぐるなどの暴力をふるわれる」行為について、小学5年生では3.3%、中学2年生では2.1%の割合でされたと回答している。「心を傷つけられる言葉をいわれる」行為については、小学5年生では5.4%、中学2年生では4.5%の割合でされたと回答があった。

「いやなことをされたことはない」割合は、小学5年生が89.0%、中学2年生が90.9%である。

その他に記入された回答として、「ない」(小5; 8件、中2; 5件)、「言葉の暴力」(小5; 2件)、「たたかれる」(小5; 2件)など選択肢と同様の回答があったほか、『「いやなこと」程ではないこと』『行動の圧』(中2; 各2件)などがある。



問13 自分のことについて

①毎日の生活が楽しい

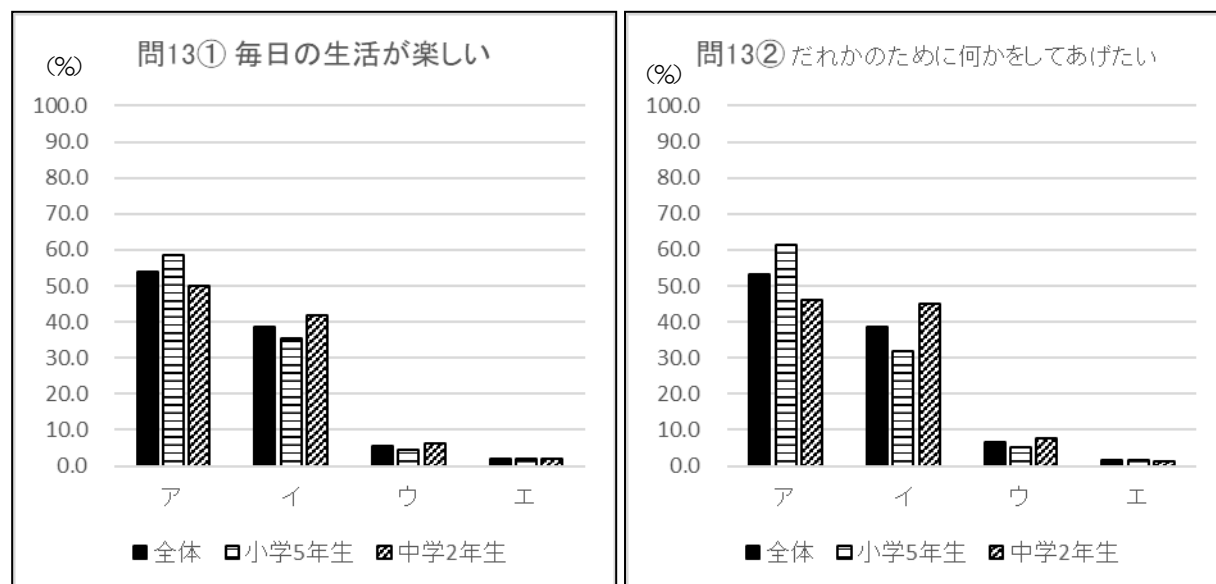
	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	896	54.0	459	58.6	437	49.9
イ まあそう思う	641	38.7	276	35.2	365	41.7
ウ あまりそう思わない	90	5.4	34	4.3	56	6.4
エ そう思わない	31	1.9	14	1.8	17	1.9

②だれかのために何かをしてあげたい

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	883	53.3	480	61.3	403	46.1
イ まあそう思う	642	38.7	249	31.8	393	44.9
ウ あまりそう思わない	109	6.6	41	5.2	68	7.8
エ そう思わない	24	1.4	13	1.7	11	1.3

自分自身に関する質問のうち、毎日の生活が楽しいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学5年生で93.8%、中学2年生で91.6%であった。最も多かった回答は小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」で、それぞれ58.6%、49.9%であった。

だれかのために何かをしてあげたいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学5年生で93.1%、中学2年生で91.0%であった。最も多かった回答は小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」で、それぞれ61.3%、46.1%であった。



③社会に役立つことをしたい

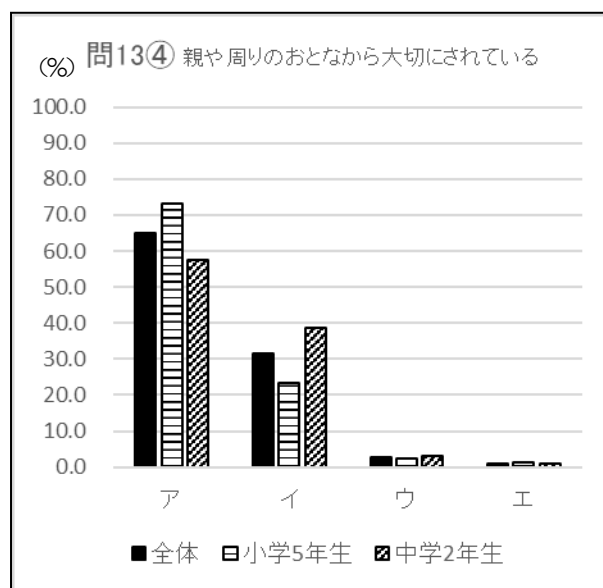
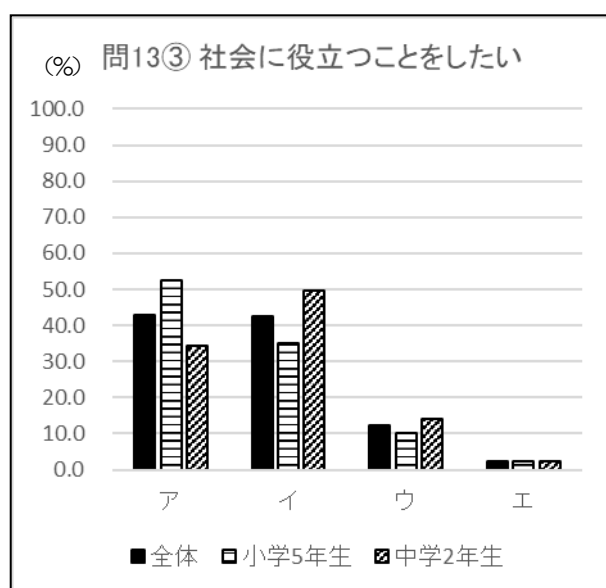
	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	710	42.8	411	52.5	299	34.2
イ まあそう思う	708	42.7	274	35.0	434	49.6
ウ あまりそう思わない	203	12.2	80	10.2	123	14.1
エ そう思わない	37	2.2	18	2.3	19	2.2

④親や周りの大人から大切にされている

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	1,076	64.9	573	73.2	503	57.5
イ まあそう思う	520	31.4	182	23.2	338	38.6
ウ あまりそう思わない	45	2.7	19	2.4	26	3.0
エ そう思わない	17	1.0	9	1.1	8	0.9

自分自身に関する質問のうち、社会に役立つことをしたいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学5年生で87.5%、中学2年生で83.8%であった。最も多かった回答は小学5年生が「そう思う」で52.5%、中学2年生が「まあそう思う」で49.6%であった。

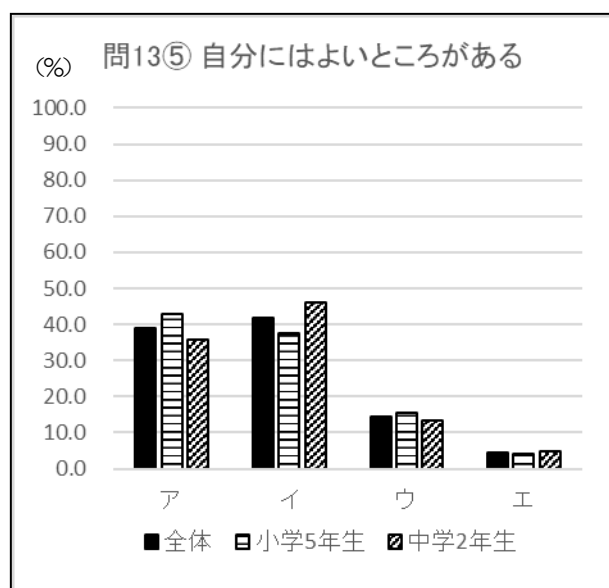
親や周りの大人から大切にされていると思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学5年生が96.4%で、中学2年生が96.1%であった。最も多かった回答は小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」でそれぞれ73.2%、57.5%であった。



⑤自分にはよいところがある

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	647	39.0	335	42.8	312	35.7
イ まあそう思う	696	42.0	294	37.5	402	45.9
ウ あまりそう思わない	240	14.5	122	15.6	118	13.5
エ そう思わない	75	4.5	32	4.1	43	4.9

自分自身に関する質問のうち、自分にはよいところがあると思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学5年生で80.3%、中学2年生で81.6%であった。最も多かった回答は小学5年生が「そう思う」で42.8%、中学2年生が「まあそう思う」で45.9%であった。

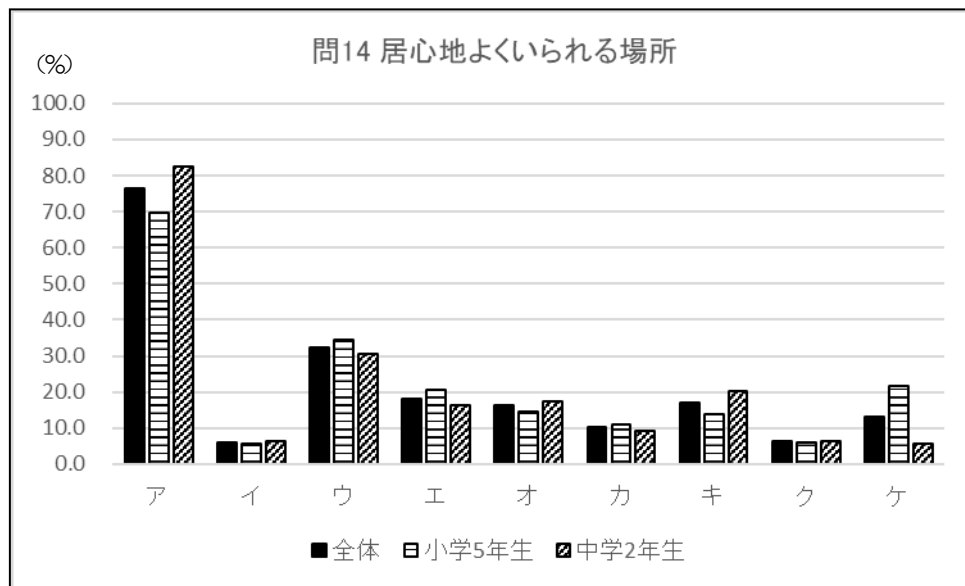


問14 自分にとって居場所だと感じられる場所

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 自分の部屋	1,268	76.5	545	69.6	723	82.6
イ サークルなど地域の居場所	100	6.0	43	5.5	57	6.5
ウ 友だちの家	536	32.3	270	34.5	266	30.4
エ 公園などの屋外	303	18.3	160	20.4	143	16.3
オ ショッピングモールなど	268	16.2	115	14.7	153	17.5
カ 図書館や文化会館など市の施設	168	10.1	87	11.1	81	9.3
キ SNS等を通じたゲームや交流の場	284	17.1	108	13.8	176	20.1
ク 特にない	105	6.3	48	6.1	57	6.5
ケ その他	219	13.2	169	21.6	50	5.7

自分にとって居場所だと感じられる場所について、小学5年生、中学2年生とも最も多かった回答「自分の部屋」である。街中での居場所として、「公園などの屋外」が小学5年生で20.4%、中学2年生では16.3%の回答があり、「ショッピングモール」が小学5年生で14.7%、中学2年生では17.5%の回答がある。「SNS等を通じたゲームや交流の場」のようなネット上に居場所を感じられる回答では、小学5年生で13.8%、中学2年生で20.1%の回答がある。

その他に記入された回答として、「自宅」(小5; 135件(17.2%)、中2; 24件(2.7%))、「祖父母の家」(小5; 16件、中2; 1件)、「習いごとや部活動の場所や時間」(小5; 7件、中2; 13件)、「家族との時間」(小5; 1件、中2; 4件)などがある。

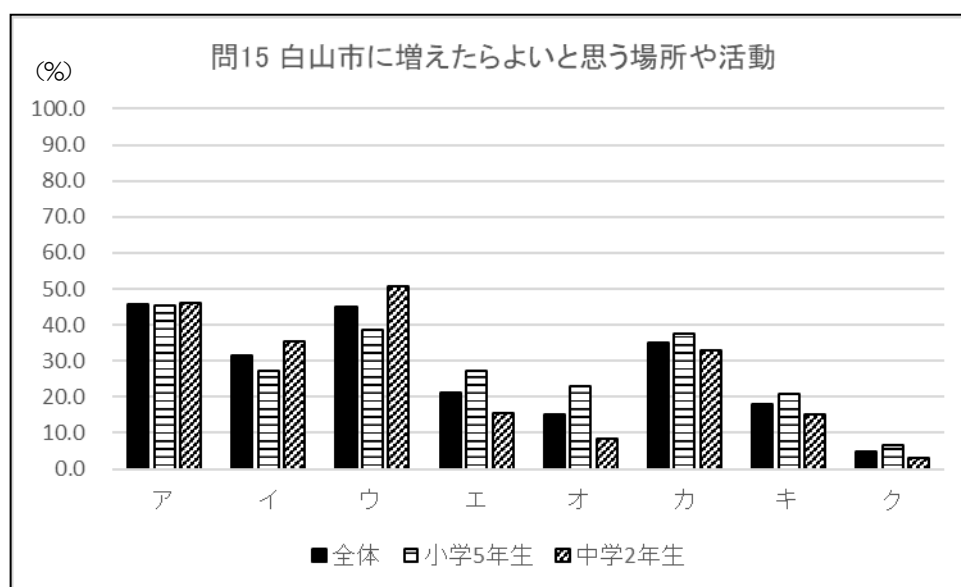


問15 白山市にもっと増えたらよいと思う場所や活動

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 友だちと話をすることができる場所	760	45.8	356	45.5	404	46.2
イ 勉強できる場所	524	31.6	214	27.3	310	35.4
ウ スポーツや音楽ができるところ	746	45.0	302	38.6	444	50.7
エ 図書館や芸術にふれられるところ	350	21.1	213	27.2	137	15.7
オ 小中学生が参加・参画できる活動	251	15.1	179	22.9	72	8.2
カ 家や学校にいたくないときのスペース	583	35.2	294	37.5	289	33.0
キ 特にない・今で十分	296	17.9	164	20.9	132	15.1
ク その他	81	4.9	53	6.8	28	3.2

白山市に増えたらよいと思う場所や活動として、「友だちと話をすることができる場所」や「スポーツや音楽ができるところ」に回答が多くある。「家や学校にいたくないときのスペース」の回答は、小学5年生で37.5%、中学2年生で33.0%の回答があった。

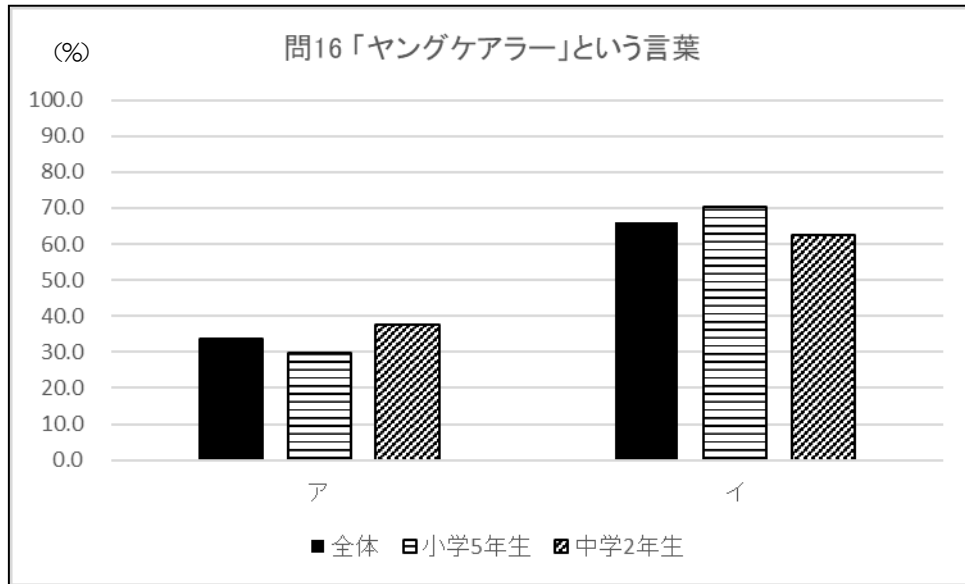
その他に記入された回答として、「子どもの遊び場」(小5; 15件、中2; 5件)、「公園」(小5; 7件、中2; 6件)、「スポーツ施設」(小5; 6件、中2; 1件)、「お店」(小5; 2件、中2; 9件)、「イベント」(小5; 1件、中2; 8件)、「気軽に話せる秘密の場所」等(小5; 4件、中2; 2件)などがある。



問16 「ヤングケアラー」という言葉

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 以前から知っていた	561	33.8	233	29.8	328	37.5
イ 知らなかった	1,097	66.2	550	70.2	547	62.5

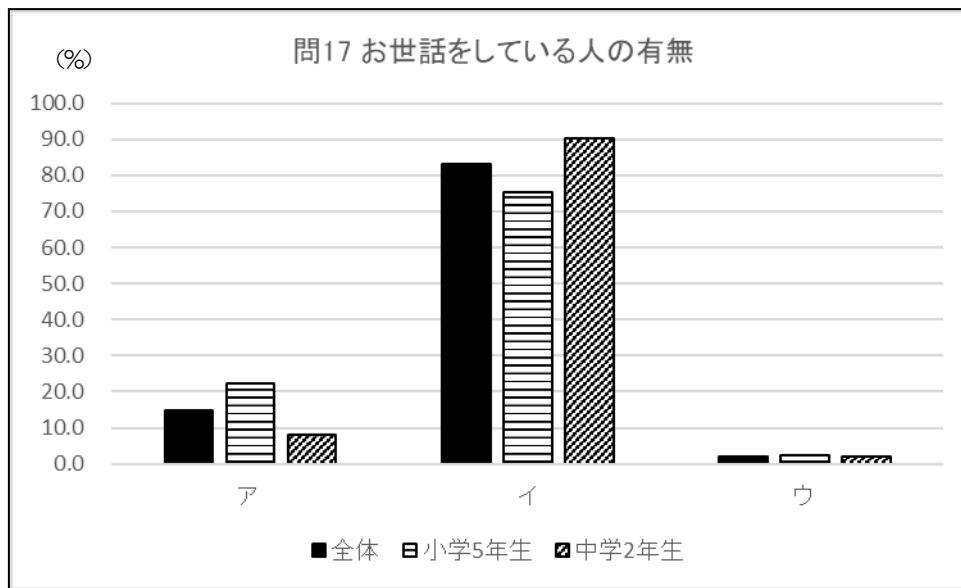
「ヤングケアラー」という言葉について、「以前から知っていた」とする回答は、小学5年生で29.8%、中学2年生で37.5%であった。



問17 家族の中でお世話をしている人

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア いる	245	14.8	175	22.3	70	8.0
イ いない	1,377	83.1	589	75.2	788	90.1
ウ 答えたくない	36	2.2	19	2.4	17	1.9

家族の中にお世話をしている人がいるかを訊ねたところ、「いる」とする回答は、小学5年生で22.3%、中学2年生で8.0%であった。「答えたくない」とした回答も若干ある。

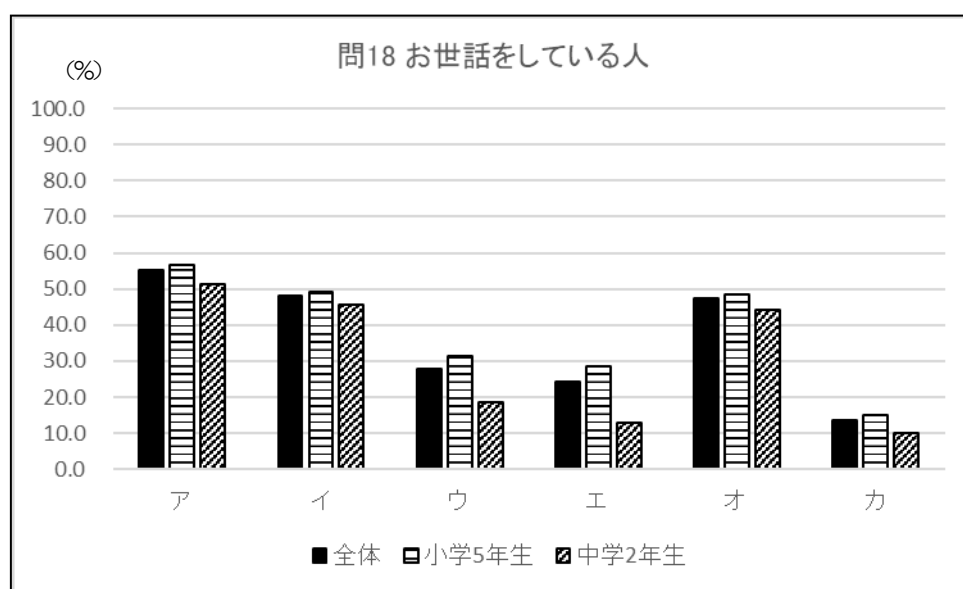


問18 お世話をしている人(問17の「ア」回答のみ対象)

	全体 n= 245		小5 n= 175		中2 n= 70	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 母	135	55.1	99	56.6	36	51.4
イ 父	118	48.2	86	49.1	32	45.7
ウ 祖母	68	27.8	55	31.4	13	18.6
エ 祖父	59	24.1	50	28.6	9	12.9
オ 兄弟姉妹	116	47.3	85	48.6	31	44.3
カ その他	33	13.5	26	14.9	7	10.0

問17で「お世話をしている人がいる」と回答した人にその対象を質問したところ、小学5年生、中学2年生ともに「母」が半数を超える回答があった(小5; 56.6%、中2; 51.4%)。「父」「兄弟姉妹」も半数近い回答がある。

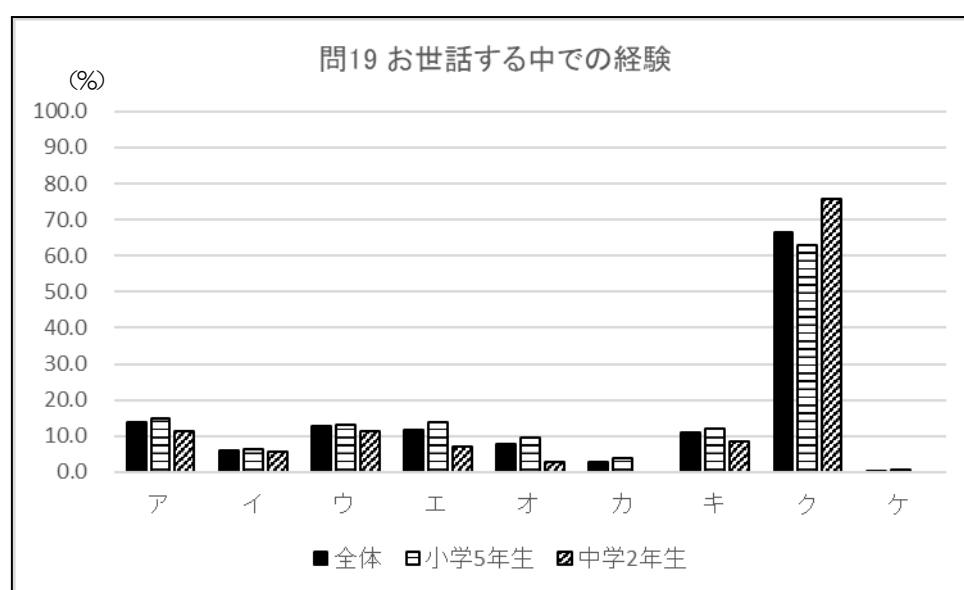
その他に記入された回答として、「ペット(イヌ、ネコなど)」の回答がみられた。



問19 お世話をする中での経験 (問17の「ア」回答のみ対象)

	全体 n= 245		小5 n= 175		中2 n= 70	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 学校を休んでしまう	34	13.9	26	14.9	8	11.4
イ 遅刻や早退をしてしまう	15	6.1	11	6.3	4	5.7
ウ 宿題など勉強する時間がない	31	12.7	23	13.1	8	11.4
エ 眠る時間が足りない	29	11.8	24	13.7	5	7.1
オ 友だちと遊ぶことができない	19	7.8	17	9.7	2	2.9
カ 習い事ができない	7	2.9	7	4.0	0	0.0
キ 自分の時間がとれない	27	11.0	21	12.0	6	8.6
ク 特にない	163	66.5	110	62.9	53	75.7
ケ その他	1	0.4	1	0.6	0	0.0

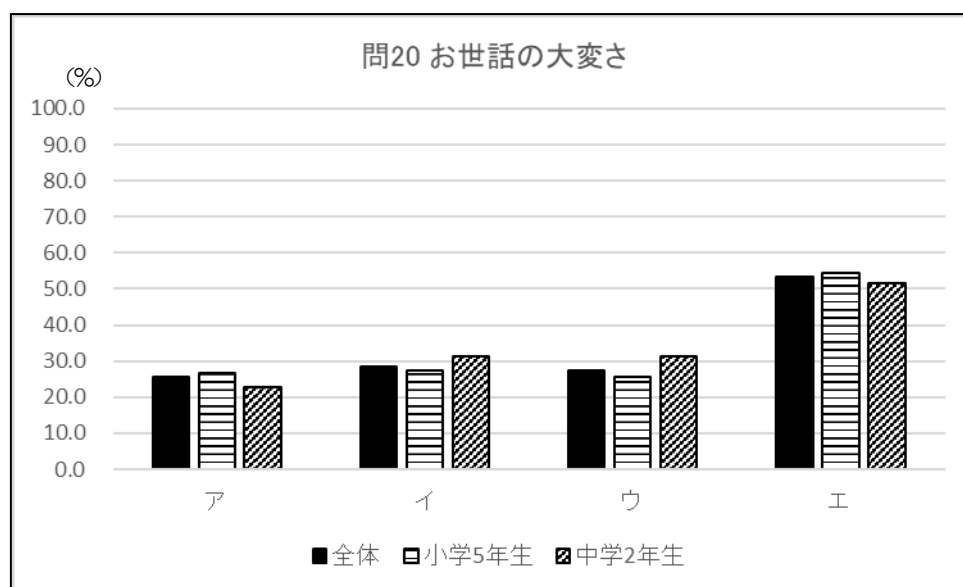
問17で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話をとおしての経験について質問したところ、「特にない」とした回答が小学5年生で62.9%、中学2年生で75.7%あった。「学校を休んでしまう」経験は小学5年生で14.9%、中学2年生で11.4%の回答があった。



問20 お世話の大変さ（問17の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 245		小5 n= 175		中2 n= 70	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 体力の面で大変	63	25.7	47	26.9	16	22.9
イ 気持ちの面で大変	70	28.6	48	27.4	22	31.4
ウ 時間の余裕がない	67	27.3	45	25.7	22	31.4
エ 特に大変さは感じていない	131	53.5	95	54.3	36	51.4

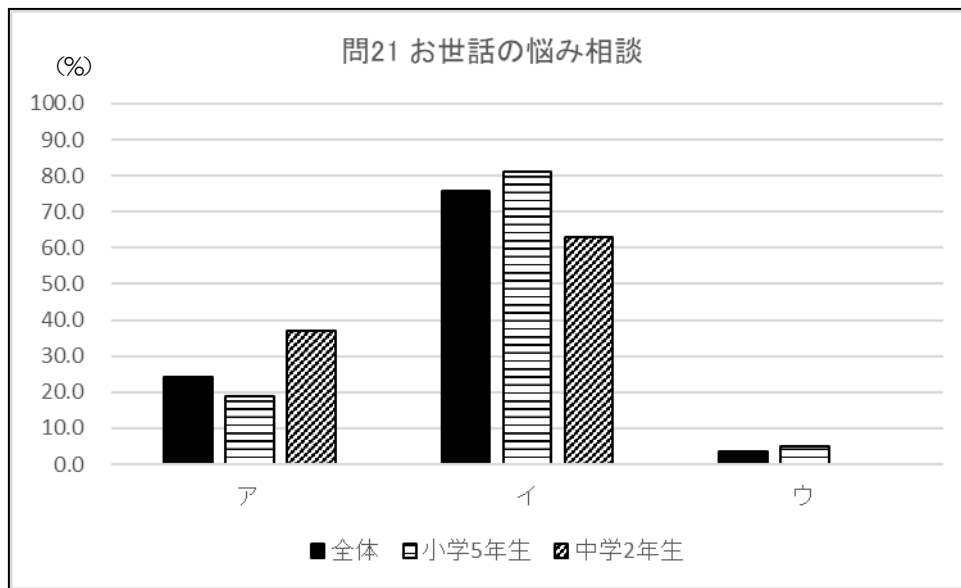
問17で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話の大変さについて質問したところ、「特に大変さは感じていない」とした回答が小学5年生で54.3%、中学2年生で51.4%あった。「体力の面」「気持ちの面」「時間の余裕」についてもそれぞれ全体で3割程度の回答があった。



問21 お世話の悩み相談（問17の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 245		小5 n= 175		中2 n= 70	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア ある	59	24.1	33	18.9	26	37.1
イ ない	186	75.9	142	81.1	44	62.9
ウ 答えたくない	9	3.7	9	5.1	0	0.0

問17で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話の悩みについて誰かに相談したことがあるか質問したところ、「ない」とした回答が小学5年生で81.1%、中学2年生で62.9%あった。



2 高校生対象調査結果

調査の概要

(1) 調査の目的

白山市子どもの権利に関する条例をもとに、子どもたちの人権に対する実態と意識を把握し、今後の行動につなげていくこと目的として実施した。

(2) 調査対象及び調査時期について

調査は市内の県立高校 3 校の生徒を対象として、令和 7 年 6 月から 7 月にかけて各校で実施した。調査方法は生徒の GIGA 端末を使用し、指定 URL にアクセスして回答を得た。

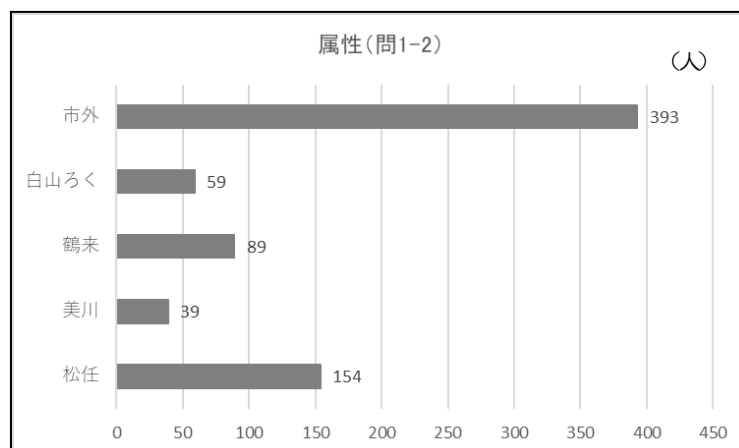
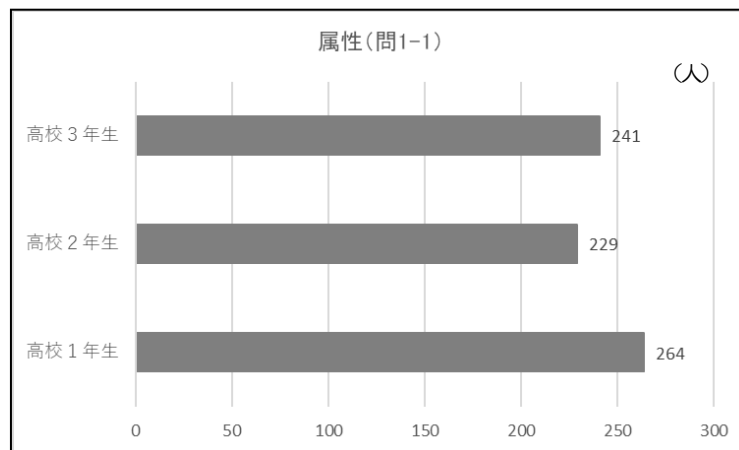
調査の結果

属性（問 1－1） 学年

全体 (人)	高校 1 年生 (人)	高校 2 年生 (人)	高校 3 年生 (人)
734	264	229	241

属性（問 1－2） 住所地

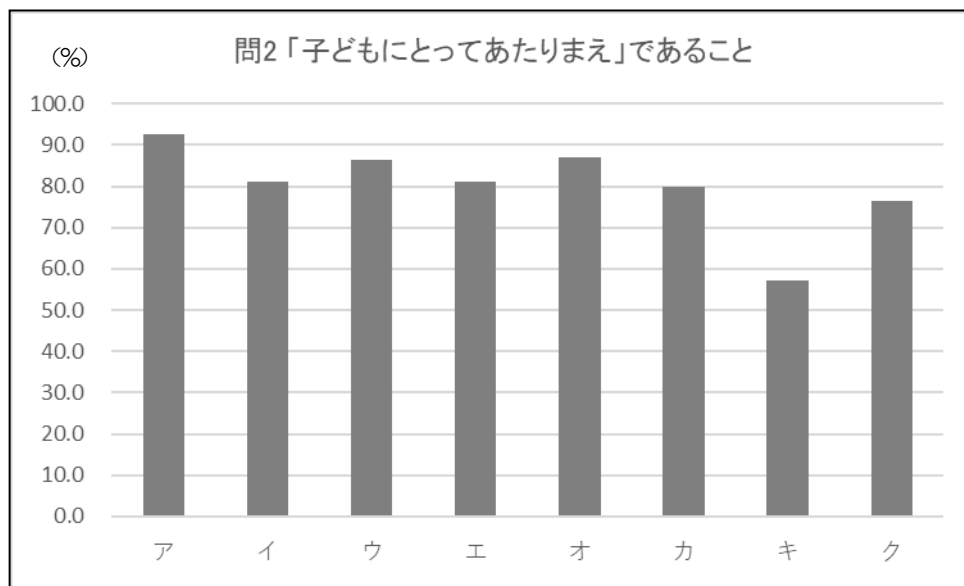
松任 (人) (%)		美川 (人) (%)		鶴来 (人) (%)		白山ろく (人) (%)		市外 (人) (%)	
154	21.0	39	5.3	89	12.1	59	8.0	393	53.5



問2 「子どもにとってあたりまえ」であると思うもの

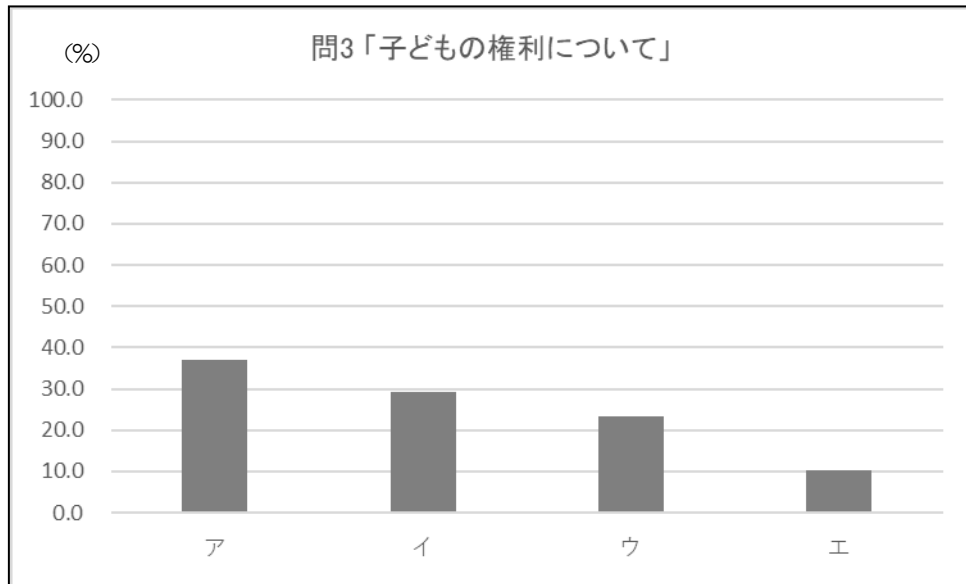
	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 食事をする	680	92.6
イ あたたかいふとんでねる	596	81.2
ウ 家族で過ごす	635	86.5
エ ほっとできるところがある	595	81.1
オ 友達と遊ぶ	638	86.9
カ 勉強する	587	80.0
キ 地域の行事に参加する	420	57.2
ク 思っていることを言う	561	76.4

いずれの項目も「子どもにとってあたりまえ」のものである。ほとんどの項目で 8 割を超えているが、「思っていることを言う」は 76.4%の回答「地域の行事に参加する」は 57.2%と低い回答率であった。



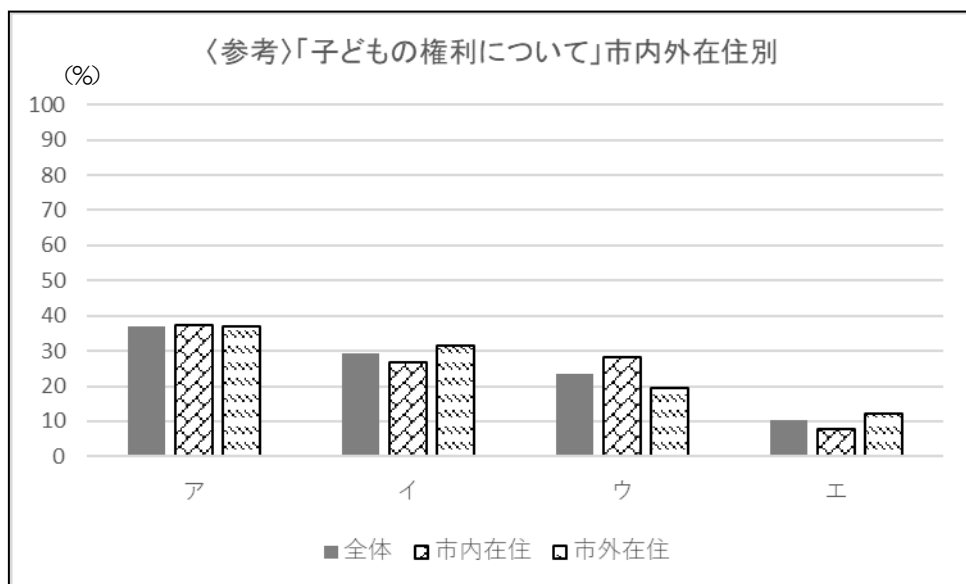
問3 子どもに「権利があること」の認知度

	全体 n=734		市内在住 n=341		市外在住 n=393	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 知っている	272	37.1	127	37.2	145	36.9
イ だいたい知っている	215	29.3	91	26.7	124	31.6
ウ 聞いたことがある	172	23.4	96	28.2	76	19.3
エ 知らない	75	10.2	27	7.9	48	12.2



「子どもの権利」の認知度について、「知っている」「だいたい知っている」を合わせた割合は、66.4%であった。

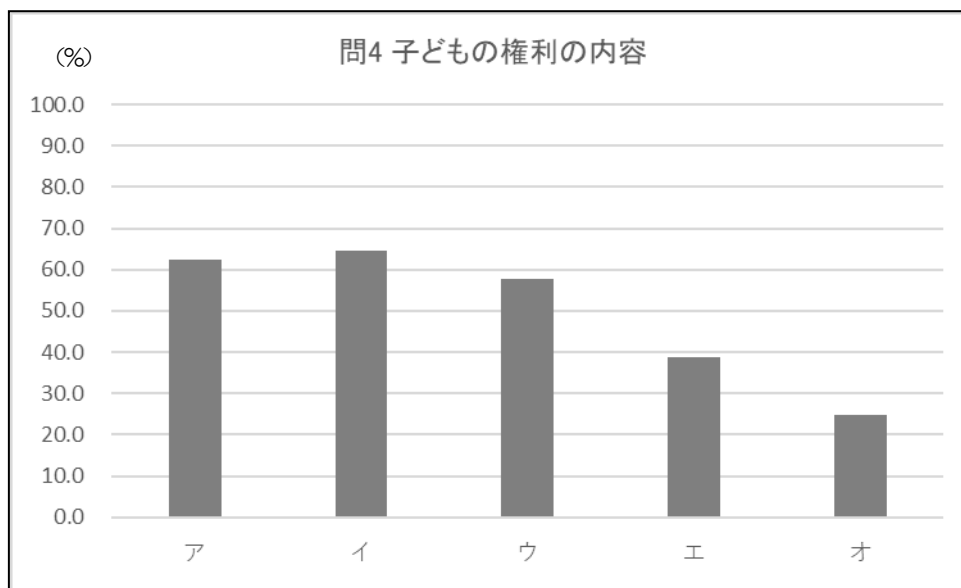
参考として、市内在住生徒と市外在住生徒に分けたところ、「知っている」「だいたい知っている」を合わせた割合は、市内在住の生徒は63.9%、市外在住の生徒は68.5%であり、市外在住の生徒の方が上回っている。「聞いたことがある」まで含めると、市内在住の生徒は92.1%、市外在住の生徒は87.8%となり、高校生になってからの学習のほか、中学生までの間の学習が引き継がれていることもうかがえる。



問4 子どもの権利の内容の理解度

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 安心して生きる権利	459	62.5
イ 守られる権利	473	64.4
ウ よりよく育つ権利	424	57.8
エ 参加する権利	284	38.7
オ 知らない	183	24.9

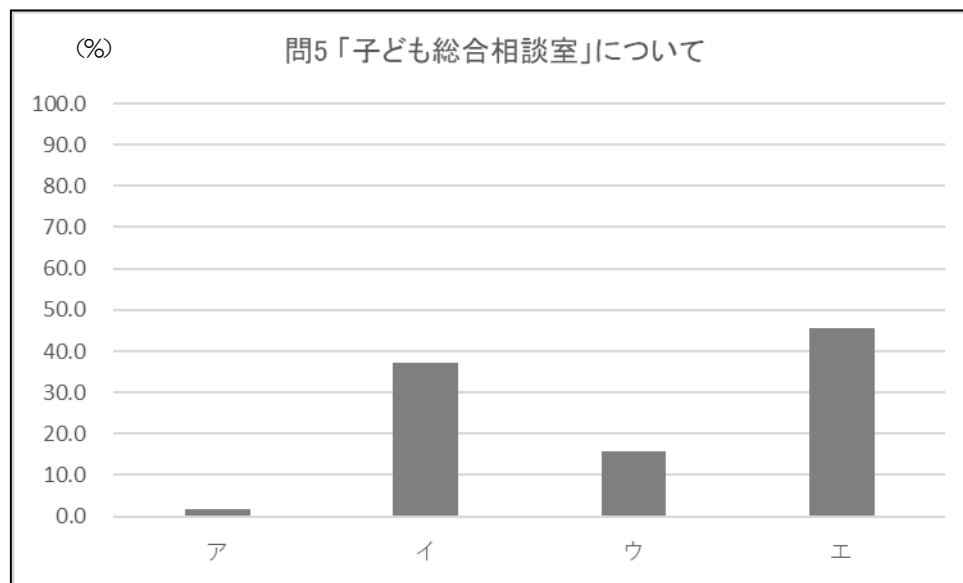
「子どもの権利」の内容の理解度について、「守られる権利」や「安心して生きる権利」は6割を超えているが、「参加する権利」は38.7%で4割に届いていないほか、「知らない」も24.9%の回答がある。



問5 白山市子ども総合相談室の認知度

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 知っていて利用したこともある	12	1.6
イ 知っているが利用したことがない	272	37.1
ウ 名前は聞いたことがある	116	15.8
エ 聞いたことがない	334	45.5

白山市子ども総合相談室の認知度について、「知っていて利用したこともある」「知っているが利用したことはない」を合わせた割合は、38.7%となっている。

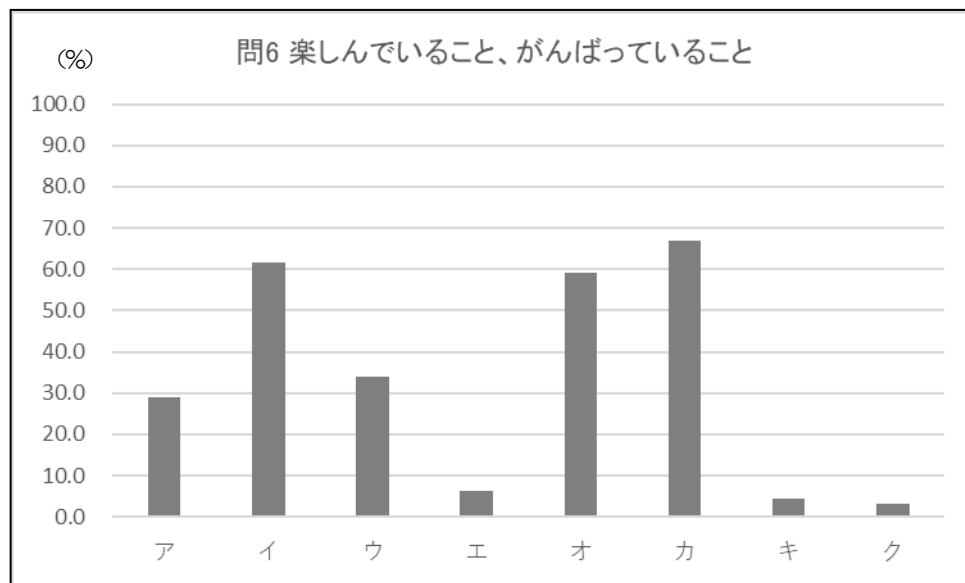


問6 今楽しんでいること、がんばっていること

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 勉強	212	28.9
イ 趣味	453	61.7
ウ クラブ活動、部活動	249	33.9
エ 習いごと	47	6.4
オ 友達との遊び	434	59.1
カ 動画、SNS、オンラインゲーム	490	66.8
キ 楽しんでいること、がんばっていることはない	32	4.4
ク その他	23	3.1

今楽しんでいることやがんばっていることとして、最も回答が多かったものは「動画、SNS、オンラインゲーム」で66.8%である。「趣味」や「友達との遊び」も6割前後の回答があった。

その他に記入された回答として、アニメやイラスト、筋トレなどの「趣味」4件、「恋人との時間」4件、「アルバイト」3件などがある。

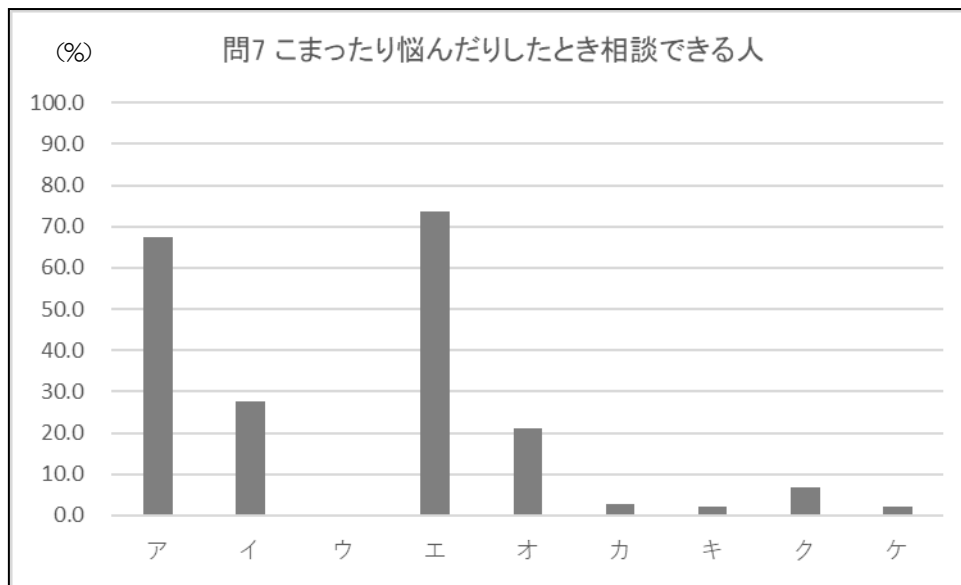


問7 こまったり悩んだりしたときに相談できる人

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 親	496	67.6
イ 兄弟姉妹	204	27.8
ウ 祖父母	0	0.0
エ 友だち	541	73.7
オ 学校内の先生、スクールカウンセラー	156	21.3
カ 学習塾や習いごとの先生	20	2.7
キ 電話相談など話を聞いてくれる相談員	16	2.2
ク 相談できる人はいない	50	6.8
ケ その他	15	2.0

こまったり悩んだりしたときに相談できる人として、「友だち」が 73.7%で最も多く、次いで「親」が 67.6%となっている。

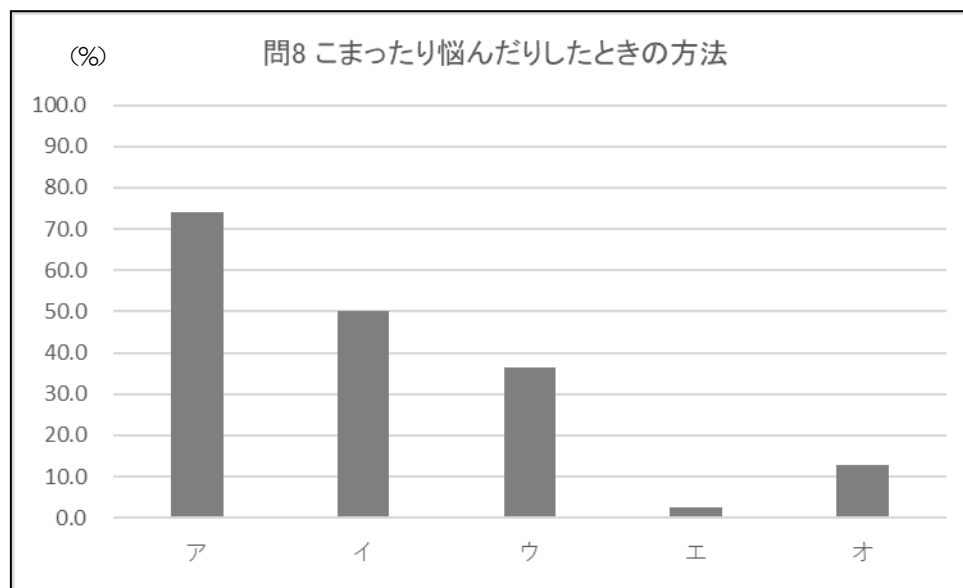
その他に記入された回答として、「恋人」4件、「A I」4件、「SNS」2件などがある。



問8 こまったり悩んだりしたときに相談する方法

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 直接顔を合わせて話す	543	74.0
イ メール、SNS	367	50.0
ウ 電話	267	36.4
エ 手紙、はがき	18	2.5
オ 誰にも相談しない	93	12.7

こまったり悩んだりしたときの相談の方法として、「直接顔を合わせて話す」が最も多く、74.0%であった。「メール、SNS」も半数が回答している。



問9 自分のことについて

①毎日の生活が楽しい

	全体 n=734 (人) (%)	
ア そう思う	291	39.6
イ まあそう思う	355	48.4
ウ あまりそう思わない	61	8.3
エ そう思わない	27	3.7

②だれかのために何かをしてあげたい

	全体 n=734 (人) (%)	
ア そう思う	334	45.5
イ まあそう思う	321	43.7
ウ あまりそう思わない	62	8.4
エ そう思わない	17	2.3

③社会に役立つことをしたい

	全体 n=734 (人) (%)	
ア そう思う	263	35.8
イ まあそう思う	342	46.6
ウ あまりそう思わない	102	13.9
エ そう思わない	27	3.7

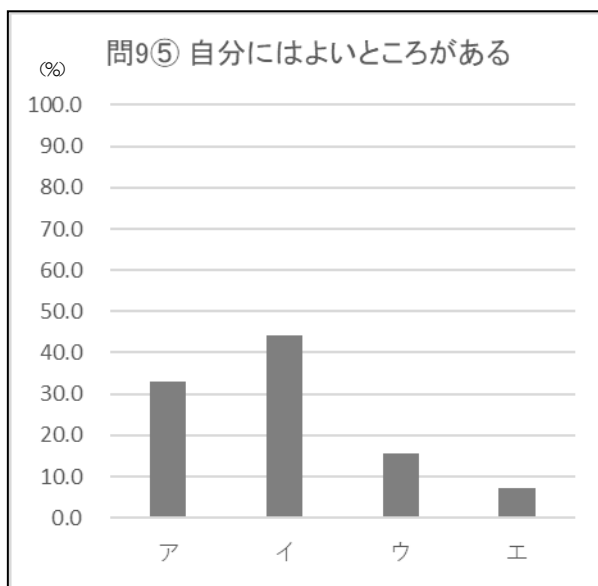
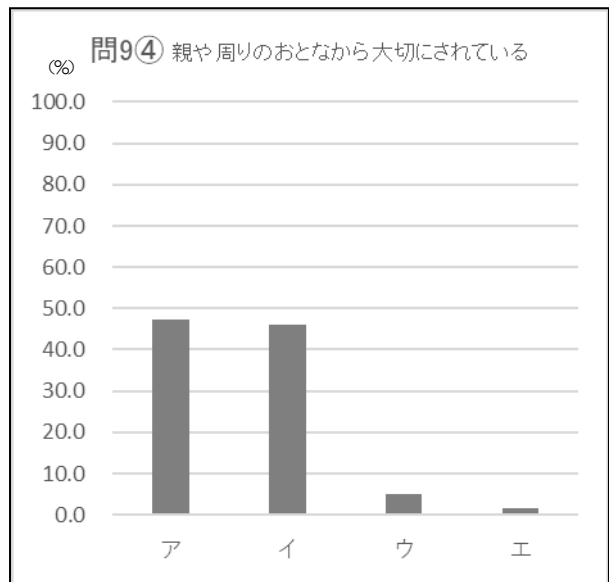
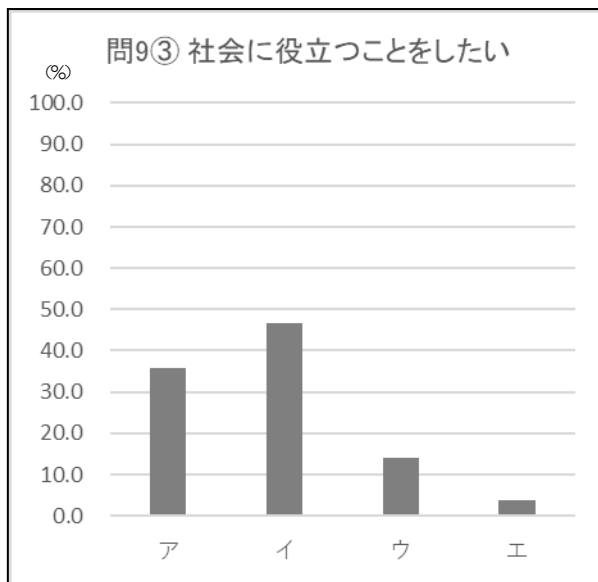
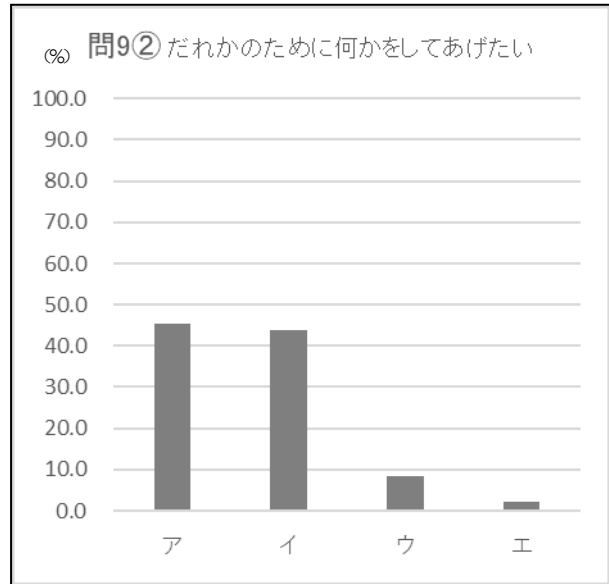
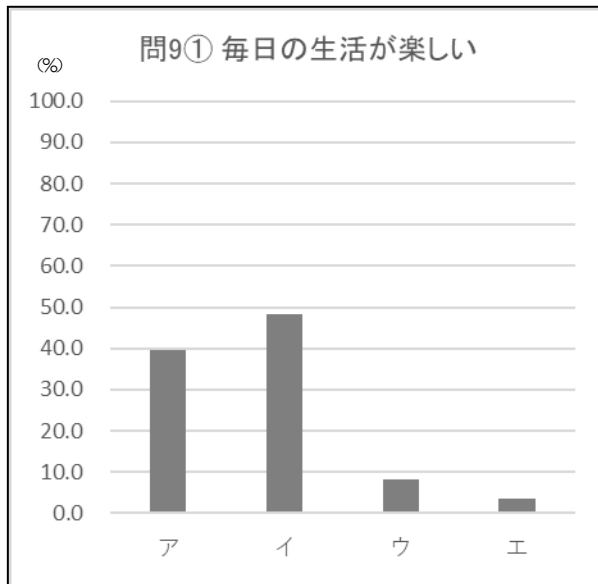
④親や周りの大人から大切にされている

	全体 n=734 (人) (%)	
ア そう思う	348	47.4
イ まあそう思う	337	45.9
ウ あまりそう思わない	38	5.2
エ そう思わない	11	1.5

⑤自分にはよいところがある

	全体 n=734 (人) (%)	
ア そう思う	243	33.1
イ まあそう思う	324	44.1
ウ あまりそう思わない	115	15.7
エ そう思わない	52	7.1

自分自身に関する質問について、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答を確認した。
 毎日の生活が楽しいと思うかという問いについて、肯定的な回答は、88.0%、
 だれかのために何かをしてあげたいと思うかという問いについて、肯定的な回答は、89.2%、
 社会に役立つことをしたいと思うかという問いについて、肯定的な回答は、82.4%、
 親や周りの大人から大切にされていると思うかという問いについて、肯定的な回答は、93.3%、
 自分にはよいところがあると思うかという問いについて、肯定的な回答は、77.2%であった。
 周りから大切にされている、役立ちたいと思う一方で、自身のよいところを肯定できていない側面がみられる。

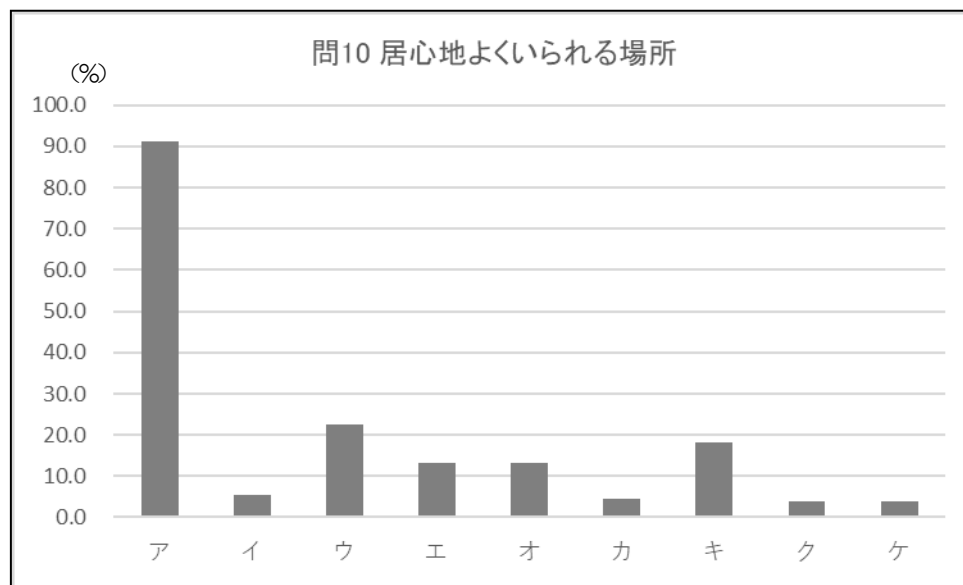


問10 自分にとって居場所だと感じられる場所

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 自分の部屋	669	91.1
イ サークルなど地域の居場所	40	5.4
ウ 友だちの家	166	22.6
エ 公園などの屋外	98	13.4
オ ショッピングモールなど	97	13.2
カ 図書館や文化会館など市の施設	33	4.5
キ SNS等を通じたゲームや交流の場	133	18.1
ク 特にない	28	3.8
ケ その他	29	4.0

自分にとって居場所だと感じられる場所について、最も多かった回答は「自分の部屋」で91.1%である。街中での居場所となりうる場所として、「公園などの屋外」は13.4%、「ショッピングモールなど」は13.2%、の回答があった。「SNS等を通じたゲームや交流の場」のようなネット上に居場所を感じられる回答は、18.1%であった。

その他に記入された回答として、「自宅」18件(2.5%)、「習いごとや部活動の場所」3件、「祖父母の家」2件などがある。

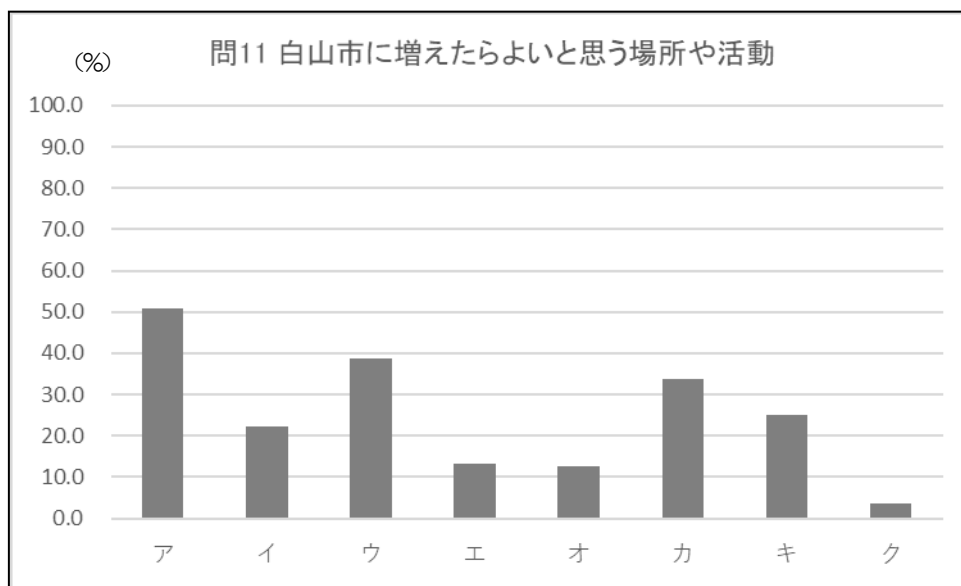


問 1 1 白山市にもっと増えたらよいと思う場所や活動

	全体 n=734	
	(人)	(%)
ア 友だちと話をすることができる場所	374	51.0
イ 勉強できる場所	163	22.2
ウ スポーツや音楽ができるところ	285	38.8
エ 図書館や芸術にふれられるところ	97	13.2
オ 高校生が参加・参画できる活動	92	12.5
カ 家や学校にいたくないときのスペース	248	33.8
キ 特にない・今で十分	185	25.2
ク その他	27	3.7

白山市に増えたらよいと思う場所や活動として、「友だちと話をすることができる場所」が半数を超えており、他には「スポーツや音楽ができるところ」の回答が多くあった。「家や学校にいたくないときのスペース」にも 33.8%の回答があった。

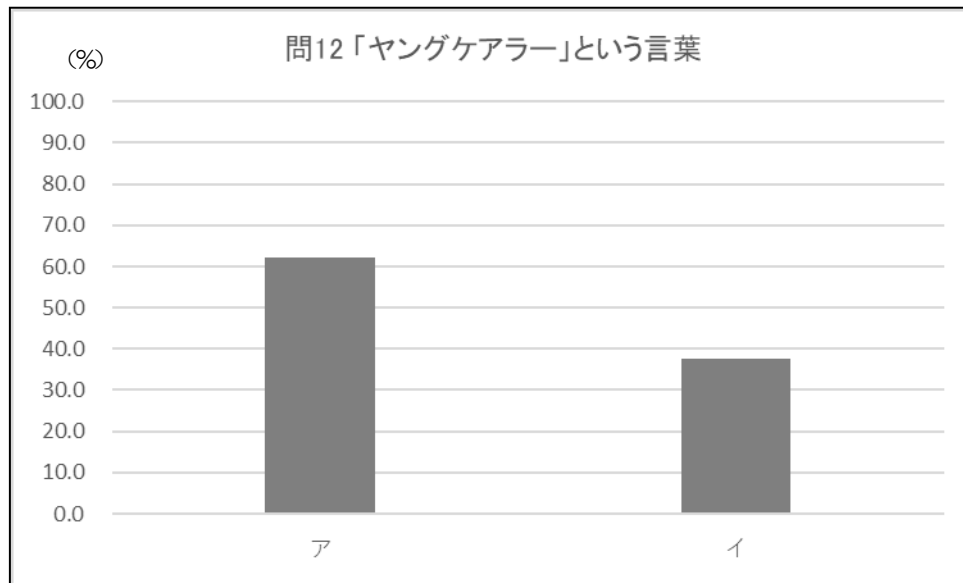
その他に記入された回答として、「娯楽施設」12 件 (1.6%)、「カフェ」3 件、「人と交流できる場所やイベント」2 件などがある。



問 1 2 「ヤングケアラー」という言葉

	全体 n=729	
	(人)	(%)
ア 以前から知っていた	454	62.3
イ 知らなかった	275	37.7

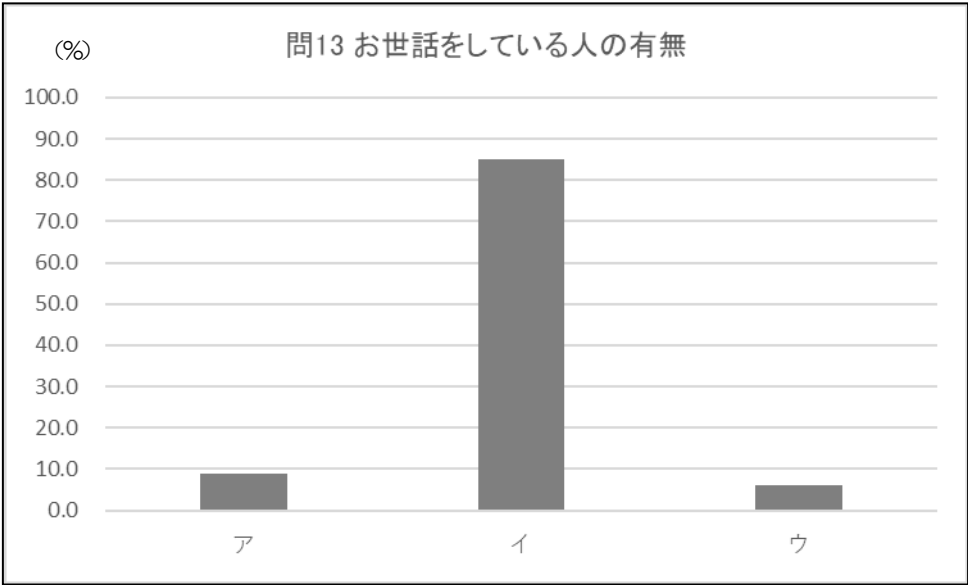
「ヤングケアラー」という言葉について、「以前から知っていた」とする回答は、62.3%であった。



問 13 家族の中でお世話をしている人

	全体 n=727	
	(人)	(%)
ア いる	65	8.9
イ いない	618	85.0
ウ 答えたくない	44	6.1

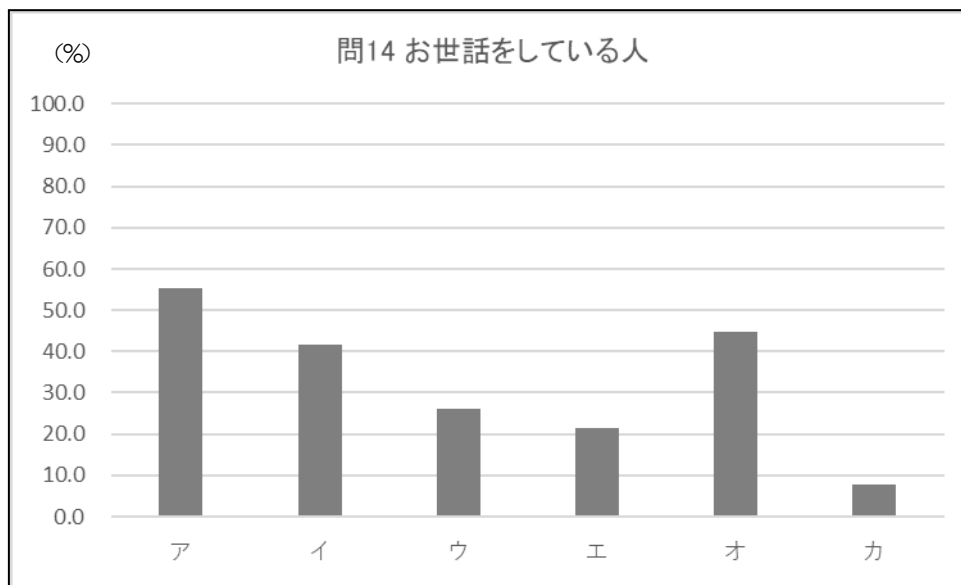
家族の中にお世話をしている人がいるかを訊ねたところ、「いる」とする回答は、8.9%、「答えたくない」とした回答は6.1%あった。



問14 お世話をしている人（問13の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 65	
	(人)	(%)
ア 母	36	55.4
イ 父	27	41.5
ウ 祖母	17	26.2
エ 祖父	14	21.5
オ 兄弟姉妹	29	44.6
カ その他	5	7.7

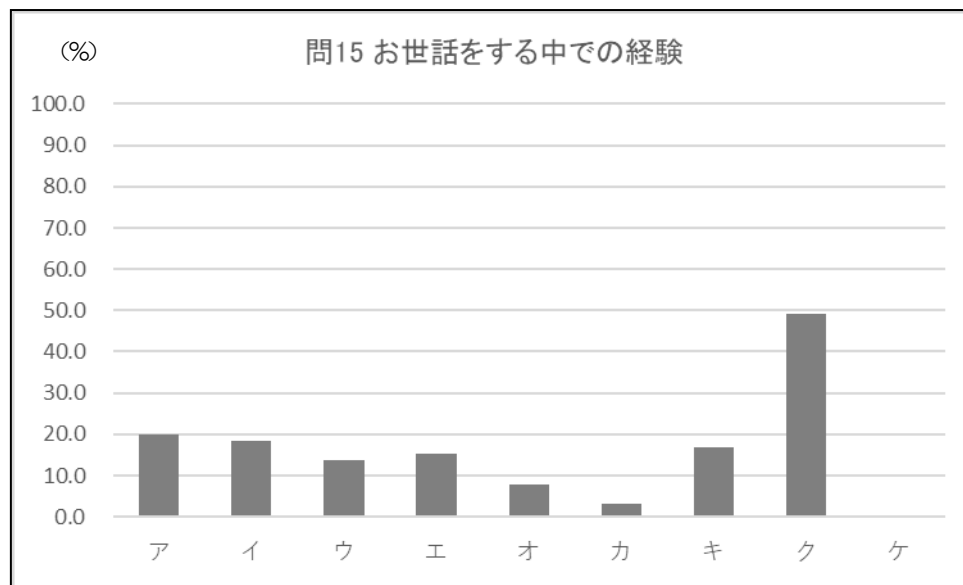
問13で「お世話をしている人がある」と回答した人にその対象を質問したところ、「母」とする回答が55.4%ある。「父」「兄弟姉妹」も4割を超える回答がある。



問15 お世話をしている中での経験（問13の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 65	
	(人)	(%)
ア 学校を休んでしまう	13	20.0
イ 遅刻や早退をしてしまう	12	18.5
ウ 宿題など勉強する時間がない	9	13.8
エ 眠る時間が足りない	10	15.4
オ 友だちと遊ぶことができない	5	7.7
カ 習い事ができない	2	3.1
キ 自分の時間がとれない	11	16.9
ク 特にない	32	49.2
ケ その他	0	0.0

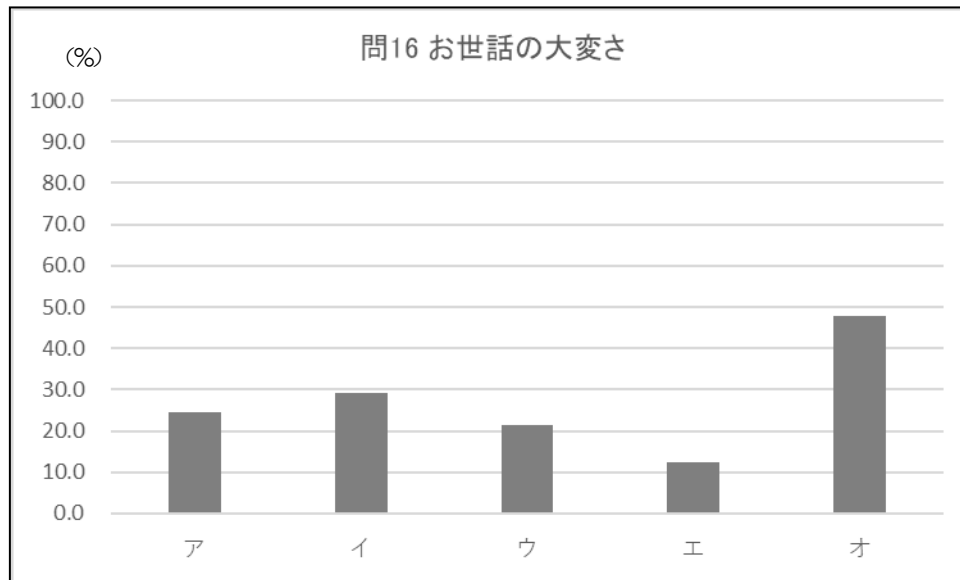
問13で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話をとおしての経験について質問したところ、「特にない」とした回答が49.2%あった。「学校を休んでしまう」経験は20.0%、「遅刻や早退をしてしまう」経験は18.5%の回答があった。



問16 お世話の大変さ（問13の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 65	
	(人)	(%)
ア 体力の面で大変	16	24.6
イ 気持ちの面で大変	19	29.2
ウ 時間の余裕がない	14	21.5
エ 眠る時間が足りない	8	12.3
オ 特に大変さは感じていない	31	47.7

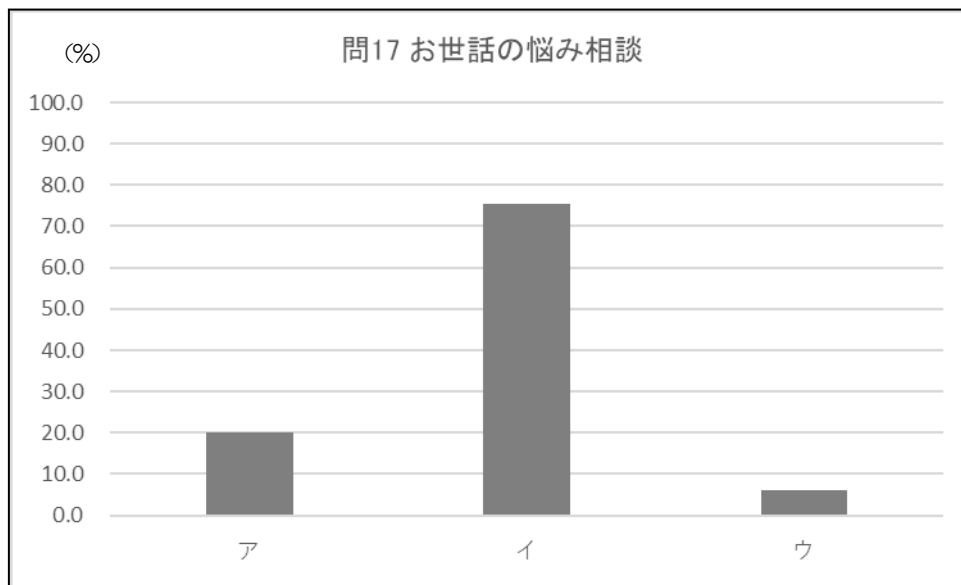
問13で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話の大変さについて質問したところ、「特に大変さは感じていない」とした回答が47.7%あった。「体力の面」「気持ちの面」「時間の余裕」についてもそれぞれ2割を超える回答があった。



問17 お世話の悩み相談（問13の「ア」回答のみ対象）

	全体 n= 65	
	(人)	(%)
ア ある	13	20.0
イ ない	49	75.4
ウ 答えたくない	4	6.2

問13で「お世話をしている人がいる」と回答した人にお世話の悩みについて誰かに相談したことがあるか質問したところ、「ない」とした回答は75.4%あった。



3 保護者対象調査結果

調査の概要

(1) 調査の目的

白山市子どもの権利に関する条例をもとに、子どもたちの人権に対する実態と意識を把握し、今後の行動につなげていくこと目的として実施した。

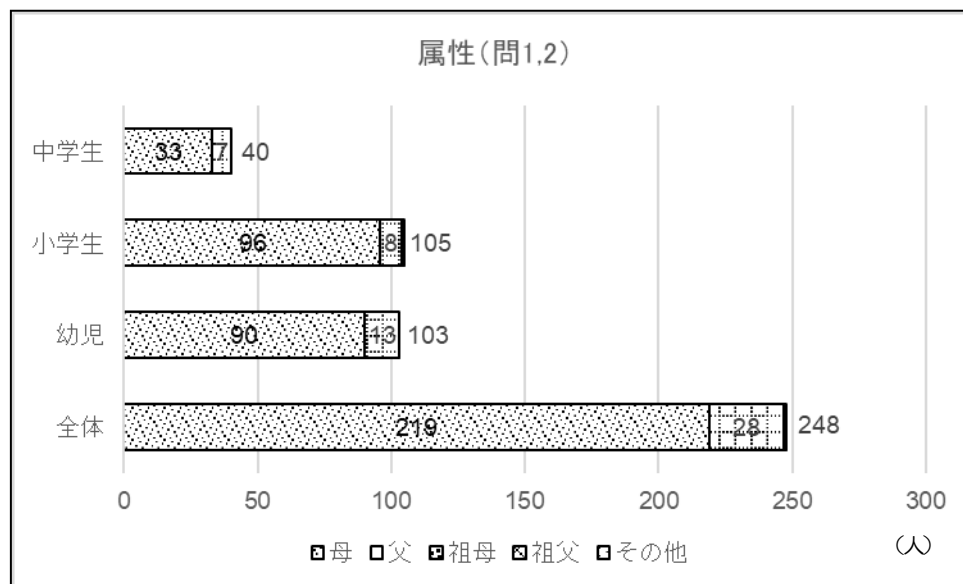
(2) 調査対象及び調査時期について

調査は市内の小・中学校各 1 校の全学年の児童・生徒の保護者と保育所 2 園の全園児の保護者を対象として依頼し、令和 7 年 6 月から 7 月にかけて実施した。調査方法は、指定 URL にアクセスして回答を得た。

調査の結果

属性（問 1, 2） 子どもの年代と続柄

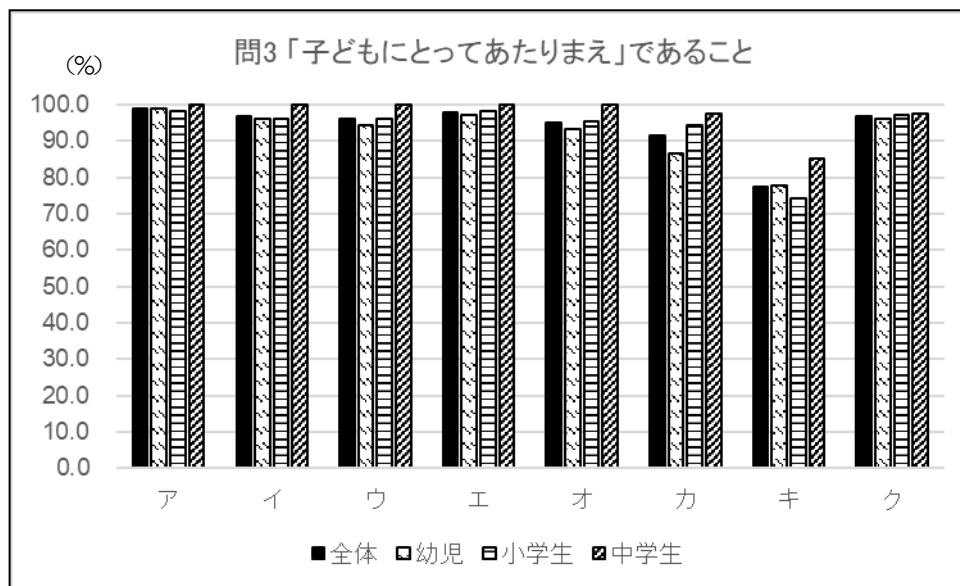
	全体 (人)	幼児 (人)	小学生 (人)	中学生 (人)
全体	248	103	105	40
母	219	90	96	33
父	28	13	8	7
祖母	1	0	1	0
祖父	0	0	0	0
その他	0	0	0	0



問3 「子どもにとってあたりまえ」であると思うもの

	全体 n= 248		幼児 n= 103		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 食事をする	245	98.8	102	99.0	103	98.1	40	100.0
イ あたたかいふとんでねる	240	96.8	99	96.1	101	96.2	40	100.0
ウ 家族で過ごす	238	96.0	97	94.2	101	96.2	40	100.0
エ ほっとできるところがある	243	98.0	100	97.1	103	98.1	40	100.0
オ 友達と遊ぶ	236	95.2	96	93.2	100	95.2	40	100.0
カ 勉強する	227	91.5	89	86.4	99	94.3	39	97.5
キ 地域の行事に参加する	192	77.4	80	77.7	78	74.3	34	85.0
ク 思っていることを言う	240	96.8	99	96.1	102	97.1	39	97.5

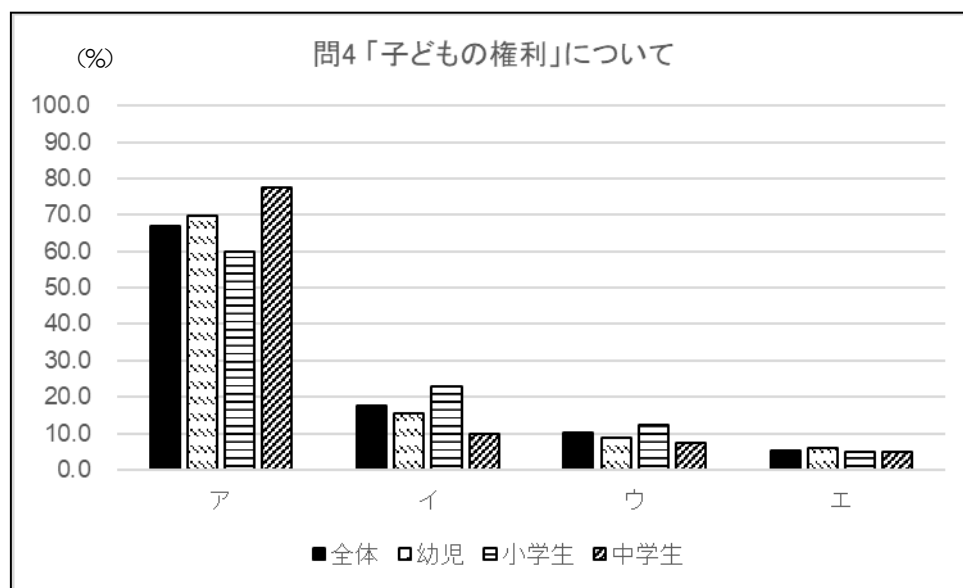
いずれの項目も「子どもにとってあたりまえ」のものである。「地域の行事に参加する」の回答が全体で77.4%であったほかは、いずれの項目も100%に近い回答である。



問4 子どもに「権利があること」の認知度

	全体 n= 248		幼児 n= 103		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 知っている	166	66.9	72	69.9	63	60.0	31	77.5
イ だいたい知っている	44	17.7	16	15.5	24	22.9	4	10.0
ウ 聞いたことがある	25	10.1	9	8.7	13	12.4	3	7.5
エ 知らない	13	5.2	6	5.8	5	4.8	2	5.0

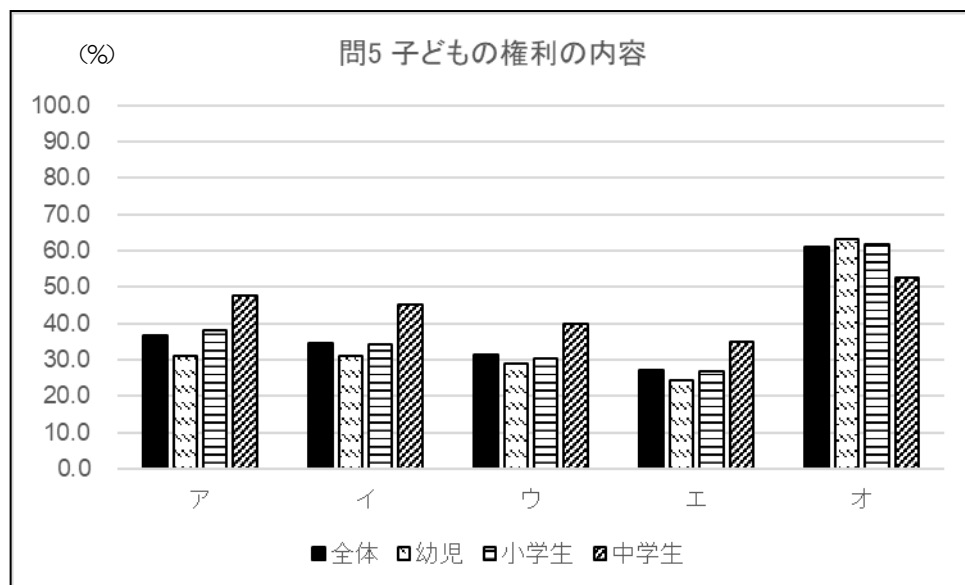
「子どもの権利」の認知度について、「知っている」「だいたい知っている」を合わせた割合は、全体で84.6%となっている。



問5 子どもの権利の内容の理解度

	全体 n= 248		幼児 n= 103		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 安心して生きる権利	91	36.7	32	31.1	40	38.1	19	47.5
イ 守られる権利	86	34.7	32	31.1	36	34.3	18	45.0
ウ よりよく育つ権利	78	31.5	30	29.1	32	30.5	16	40.0
エ 参加する権利	67	27.0	25	24.3	28	26.7	14	35.0
オ 知らない	149	60.1	65	63.1	63	60.0	21	52.5

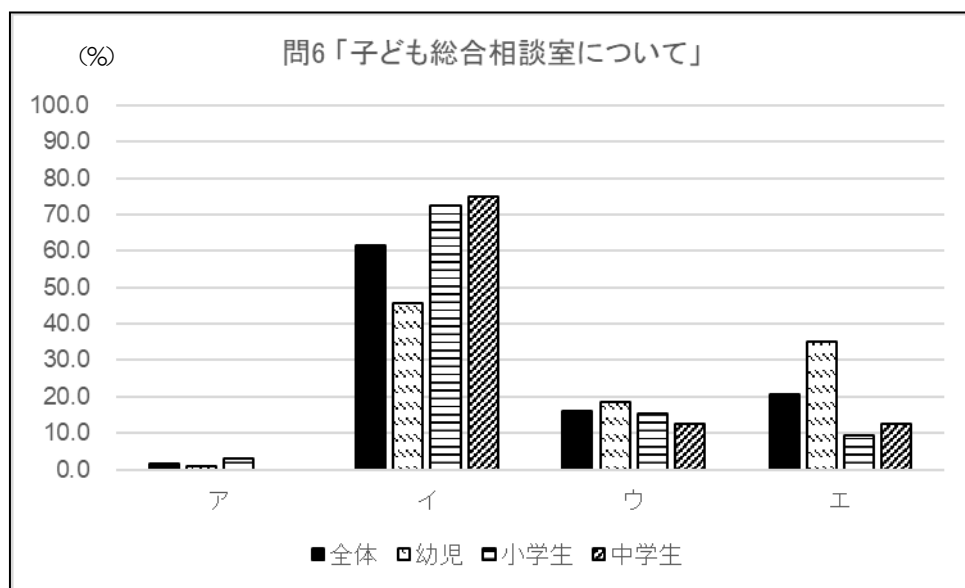
「子どもの権利」の内容の理解度について、「知らない」とする回答が全体の 60.1%であった。子どもの権利の4つの柱にあたる各項目はいずれも3割前後の回答であった。



問6 白山市子ども総合相談室の認知度

	全体 n= 248		幼児 n= 103		小学生 n=105		中学生 n=40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 知っていて利用したこともある	4	1.6	1	1.0	3	2.9	0	0.0
イ 知っているが利用したことはない	153	61.7	47	45.6	76	72.4	30	75.0
ウ 名前を聞いたことがある	40	16.1	19	18.4	16	15.2	5	12.5
エ 知らない	51	20.6	36	35.0	10	9.5	5	12.5

白山市子ども総合相談室の認知度について、「知っていて利用したこともある」「知っているが利用したことはない」を合わせた割合は、全体で 63.3%となっている。「知らない」割合は、全体で 20.6%である。

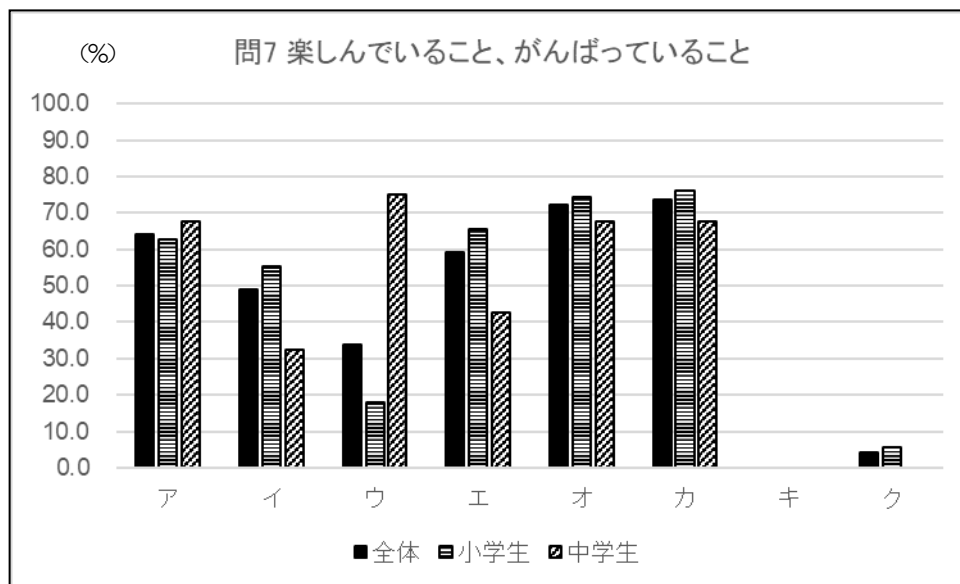


問7 お子さんが、今楽しんでいること、がんばっていること（小中学生の保護者のみ）

	全体 n= 145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 勉強	93	64.1	66	62.9	27	67.5
イ 趣味	71	49.0	58	55.2	13	32.5
ウ クラブ活動、部活動	49	33.8	19	18.1	30	75.0
エ 習いごと	86	59.3	69	65.7	17	42.5
オ 友だちとの遊び	105	72.4	78	74.3	27	67.5
カ 動画、SNS、オンラインゲーム	107	73.8	80	76.2	27	67.5
キ 楽しんでいること、がんばっていることはない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ク その他	6	4.1	6	5.7	0	0.0

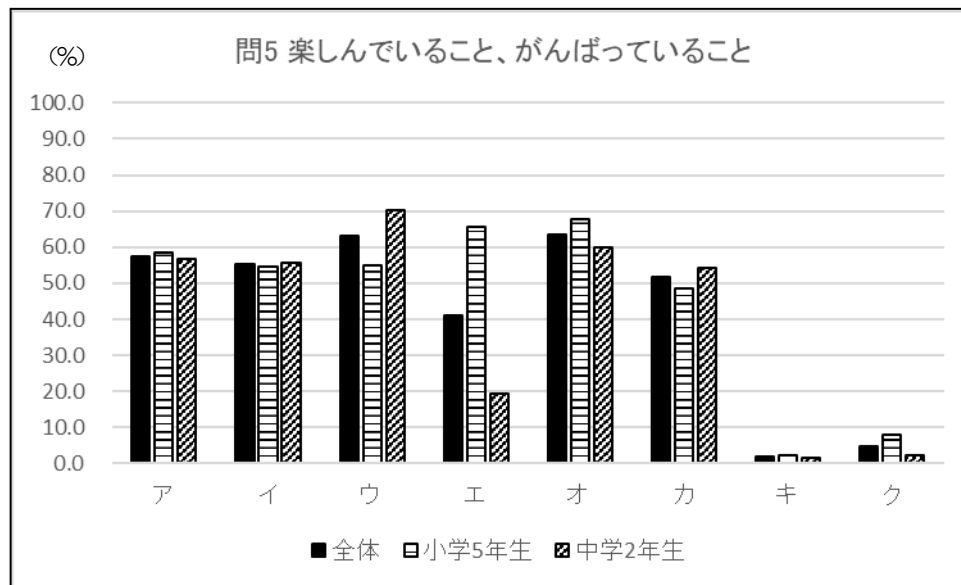
子どもが楽しんでいることやがんばっていることについて、小中学生の保護者に質問したところ、小学生では「動画、SNS、オンラインゲーム」が76.2%、「友だちとの遊び」が74.3%と高かったほか、「習いごと」や「勉強」も6割を超えている。中学生では「クラブ活動、部活動」が最も多く75.0%であったほか「勉強」「友だちとの遊びや活動」「動画、SNS、オンラインゲーム」がそれぞれ67.5%であった。

小中学生の実際の回答と比較すると、差が大きかったものとして、小学生では「クラブ活動、部活動」について保護者の思う以上に楽しんでいる（36.9ポイント差）ほか、「動画、SNS、オンラインゲーム」については保護者が思うほど力が入っていない（27.5ポイント差）状況である。中学生では「趣味」について保護者が思うよりも楽しんでおり（23.2ポイント差）、「習いごと」については保護者が思うほどではない（23.2ポイント差）状況である。



(参考) 今楽しんでいること、がんばっていること(小学5年生、中学2年生)

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア 勉強	954	57.5	457	58.4	497	56.8
イ 趣味	915	55.2	428	54.7	487	55.7
ウ クラブ活動、部活動	1,046	63.1	431	55.0	615	70.3
エ 習いごと	683	41.2	514	65.6	169	19.3
オ 友達との遊び	1,054	63.6	530	67.7	524	59.9
カ 動画、SNS、オンラインゲーム	857	51.7	381	48.7	476	54.4
キ 楽しんでいること、がんばっていることはない	31	1.9	18	2.3	13	1.5
ク その他	82	4.9	62	7.9	20	2.3



問8 自分のことについて（小中学生の保護者のみ）

①毎日の生活が楽しい

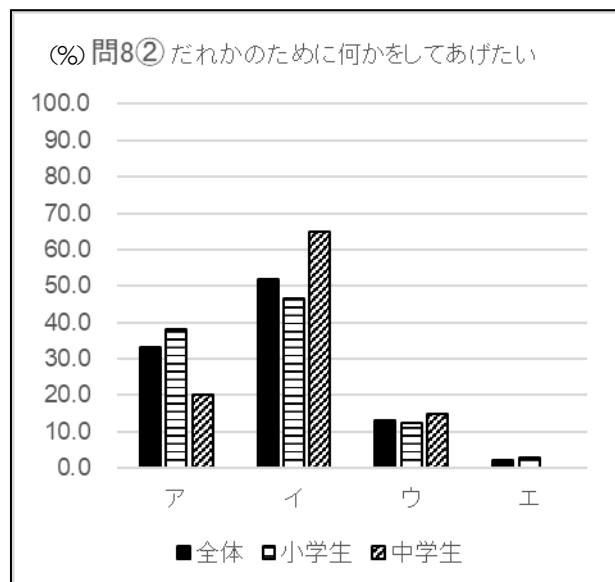
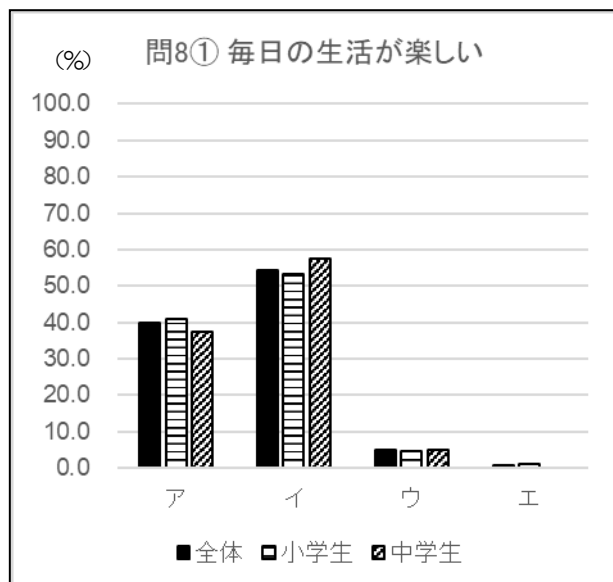
	全体 n= 145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	58	40.0	43	41.0	15	37.5
イ まあそう思う	79	54.5	56	53.3	23	57.5
ウ あまりそう思わない	7	4.8	5	4.8	2	5.0
エ そう思わない	1	0.7	1	1.0	0	0.0

②だれかのために何かをしてあげたい

	全体 n= 145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	48	33.1	40	38.1	8	20.0
イ まあそう思う	75	51.7	49	46.7	26	65.0
ウ あまりそう思わない	19	13.1	13	12.4	6	15.0
エ そう思わない	3	2.1	3	2.9	0	0.0

子どもが自身のことをどのように考えているかについて保護者に質問したところ、毎日の生活が楽しいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学生の保護者では94.3%、中学生の保護者で95.0%であった。

だれかのために何かをしてあげたいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学生の保護者で84.8%、中学生の保護者で85.0%であった。



③社会に役立つことをしたい

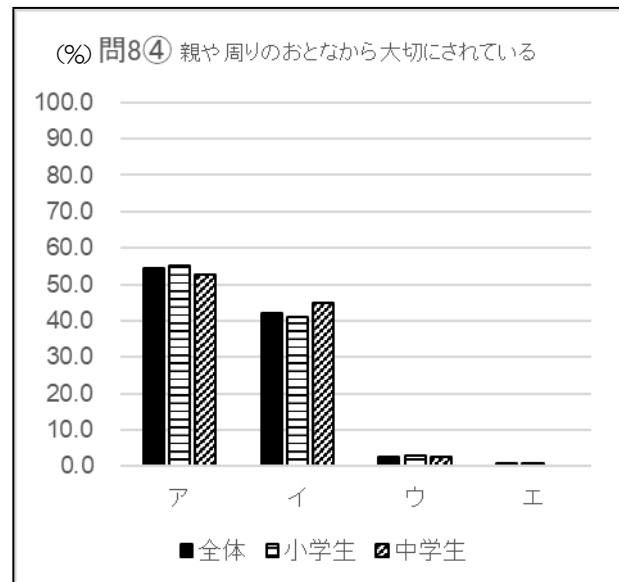
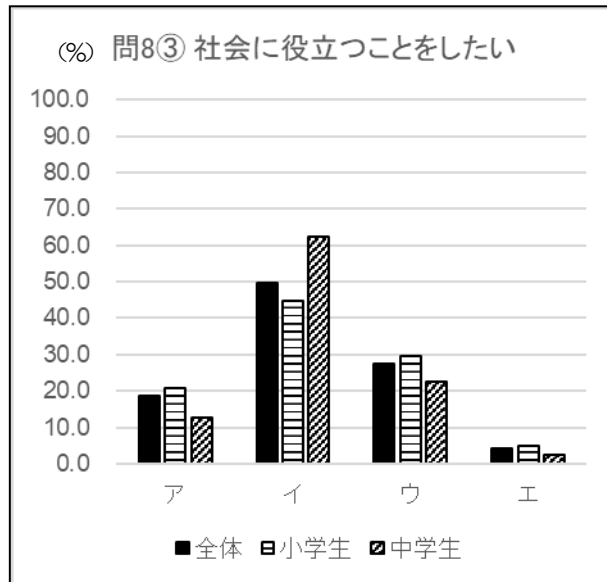
	全体 n=145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	27	18.6	22	21.0	5	12.5
イ まあそう思う	72	49.7	47	44.8	25	62.5
ウ あまりそう思わない	40	27.6	31	29.5	9	22.5
エ そう思わない	6	4.1	5	4.8	1	2.5

④親や周りの大人から大切にされている

	全体 n= 145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	79	54.5	58	55.2	21	52.5
イ まあそう思う	61	42.1	43	41.0	18	45.0
ウ あまりそう思わない	4	2.8	3	2.9	1	2.5
エ そう思わない	1	0.7	1	1.0	0	0.0

自分自身に関する質問のうち、社会に役立つことをしたいと思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学生の保護者で 65.8%、中学生の保護者で 75.0%であった。

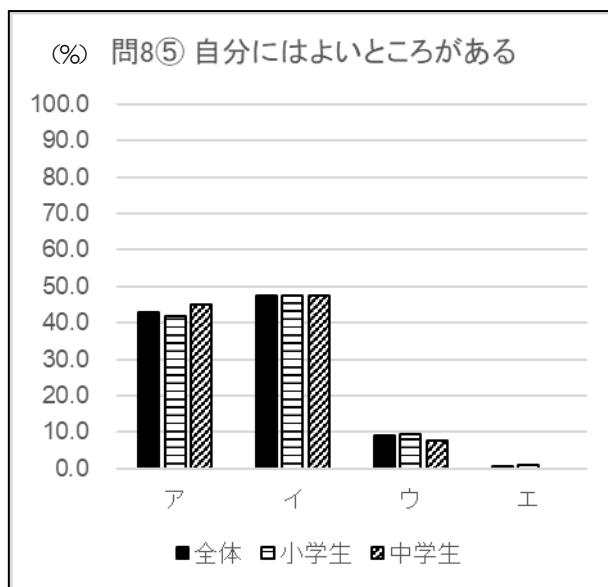
親や周りの大人から大切にされていると思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学生の保護者では 96.2%で、中学生の保護者では 97.5%であった。



⑤自分にはよいところがある

	全体 n= 145		小学生 n= 105		中学生 n= 40	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	62	42.8	44	41.9	18	45.0
イ まあそう思う	69	47.6	50	47.6	19	47.5
ウ あまりそう思わない	13	9.0	10	9.5	3	7.5
エ そう思わない	1	0.7	1	1.0	0	0.0

自分自身に関する質問のうち、自分にはよいところがあると思うかという問いについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は、小学生の保護者で 89.5%、中学生の保護者で 92.5%であった。



いずれの問いにおいても「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答で、小中学生とその保護者との回答を比較したところ概ね 10 ポイント以内であったが、③「社会に役立つことをしたい」については、小学生の保護者の肯定的な回答は低い状況（21.7 ポイント差）であった。また、⑤「自分にはよいところがある」については、中学生の肯定的な回答が保護者が思う回答よりも低い状況（10.9 ポイント差）であった。

(参考) 自分のことについて (小学5年生、中学2年生)

①毎日の生活が楽しい

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	896	54.0	459	58.6	437	49.9
イ まあそう思う	641	38.7	276	35.2	365	41.7
ウ あまりそう思わない	90	5.4	34	4.3	56	6.4
エ そう思わない	31	1.9	14	1.8	17	1.9

②だれかのために何かをしてあげたい

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	883	53.3	480	61.3	403	46.1
イ まあそう思う	642	38.7	249	31.8	393	44.9
ウ あまりそう思わない	109	6.6	41	5.2	68	7.8
エ そう思わない	24	1.4	13	1.7	11	1.3

③社会に役立つことをしたい

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	710	42.8	411	52.5	299	34.2
イ まあそう思う	708	42.7	274	35.0	434	49.6
ウ あまりそう思わない	203	12.2	80	10.2	123	14.1
エ そう思わない	37	2.2	18	2.3	19	2.2

④親や周りの大人から大切にされている

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	1,076	64.9	573	73.2	503	57.5
イ まあそう思う	520	31.4	182	23.2	338	38.6
ウ あまりそう思わない	45	2.7	19	2.4	26	3.0
エ そう思わない	17	1.0	9	1.1	8	0.9

⑤自分にはよいところがある

	全体 n=1,658		小5 n= 783		中2 n= 875	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ア そう思う	647	39.0	335	42.8	312	35.7
イ まあそう思う	696	42.0	294	37.5	402	45.9
ウ あまりそう思わない	240	14.5	122	15.6	118	13.5
エ そう思わない	75	4.5	32	4.1	43	4.9

4 資 料

令和7年度 子どもの権利に関する市民意識調査 (小中学生)

白山市では「子どもの権利」を「安心して生きる」「守られる」「よりよく育つ」「参加する」の4つにわけ、すべての子どもが幸福にくらせるまちづくりをめざしています。

この調査は、毎年、小学5年生と中学2年生から、いつも考えていることや学校や家庭でのようすについて、答えてもらっています。

1 あなたは何年生ですか？

☐小学5年生

☐中学2年生

2 子どもの権利は、「子どもにとってあたりまえなこと」という意味です。
次のうち、あなたが子どもの権利だと思うものはどれですか？

☐食事をする

☐あたたかいふとんでねる

☐家族と過ごす

☐ほっとできるところがある

☐友だちと遊ぶ

☐勉強する

☐地域の行事に参加する

☐思っていることを言う

3 あなたは子どもにも「権利があること」を知っていますか？

☐知っている

☐だいたい知っている

☐聞いたことがある

☐知らない

4 あなたは子どもの権利の内容について知っていますか？
次の中から知っている権利をすべてえらんでください。

☐安心して生きる権利

☐守られる権利

☐よりよく育つ権利

☐参加する権利 ※意見を言ったり、社会に参加すること

☐知らない

5 あなたが今、楽しんでいること、がんばっていることは何ですか？

☐勉強

☐趣味（読書、音楽、工作、料理など）

☐クラブ活動、部活動

☐習いごと（水泳、ピアノ、習字など）

☐友だちとの遊び

☐動画、SNS、オンラインゲーム

☐楽しんでいること、がんばっていることはない

☐その他

6 あなたは「白山市子ども総合相談室」について知っていますか？



- ☐ 〇知っていて利用したこともある
- ☐ 〇知っていて利用したいと思ったことがある
- ☐ 〇名前を知っている
- ☐ 〇知らない

7 あなたにとって、困ったり悩んだりしたとき、相談できる人はだれですか？

- ☐ □親
- ☐ □兄弟姉妹
- ☐ □祖父母（おじいさん、おばあさん）
- ☐ □友だち
- ☐ □学校内の先生、スクールカウンセラー
- ☐ □学習塾や習いごとの先生
- ☐ □電話相談など話を聞いてくれる相談員
- ☐ □相談できる人はいない
- ☐ □その他

8 あなたにとって、困ったり悩んだりしたとき、どのような方法で相談しますか？

- ☐ □直接顔をあわせて話す
- ☐ □メール、SNS
- ☐ □電話
- ☐ □手紙、はがき
- ☐ □誰にも相談しない

9 あなたはこの1年間に、友だちや知り合いとの間で次のようなことがありましたか？
それぞれあてはまるものを1つえらんでください。

- ◆仲間はずれにされたり、集団による無視をされたりする
- ◆ひどくぶつかられたり、たたかれたり、けられたりする
- ◆お金や物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ◆いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ◆パソコンやスマートフォンを使って、悪口を言われたり、いやなことをされたりする
- ☐ 〇されたことがある
- ☐ 〇したことがある
- ☐ 〇されたこともしたこともある
- ☐ 〇どちらもない

10 あなたは〈問9〉のようなことを見たとき、どのような行動をとると思いますか？

- ☐ほかの友だちに知らせる
- ☐学校の先生に相談する
- ☐自分の家族に相談する
- ☐相談室の先生など悩みごとの専門の人に相談する
- ☐やめるように言う
- ☐しかえしをする
- ☐何もしない、ほうっておく
- ☐その他

11 あなた自身が〈問9〉のようなことをされたとき、どのような行動に出ることがいいと思いますか？

- ☐ほかの友だちに相談する
- ☐学校の先生に相談する
- ☐自分の家族に相談する
- ☐相談室の先生など悩みごとの専門の人に相談する
- ☐やめるように言う
- ☐しかえしをする
- ☐だれにも相談せずにがまんする
- ☐その他

12 あなたはこの1年間に、親や周りの大人から次のような「いやなこと」をされたことがありますか？

- ☐たたく、ける、なぐるなどの暴力(ぼうりょく)をふるわれる
- ☐心を傷つけられる言葉をいわれる
- ☐食べるものをあたえられなかったり、ほったらかしにされる
- ☐嫌なことをされたことはない
- ☐その他

13 あなたは自分のことについてどう思いますか？それぞれあてはまるものを1つえらんでください。

- ◆毎日の生活が楽しい
- ◆だれかのために何かをしてあげたい
- ◆社会に役立つことをしたい
- ◆自分は親やまわりの大人から大切にされている
- ◆自分にはよいところがある
- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

14 あなたには、放課後や休日に自分にとって居場所だと感じられる、落ち着いて居心地よくいられる場所がありますか？

- ☐ 自分の部屋
- ☐ サークルなど地域の居場所
- ☐ 友だちの家
- ☐ 公園などの屋外
- ☐ ショッピングモールやファストフード店
- ☐ 市の施設（図書館や文化会館など）
- ☐ SNS等を通じたゲームや交流の場
- ☐ 特にない
- ☐ その他

15 白山市について、もっと増えたらいいなと思う場所や活動は何ですか？

- ☐ 友達と話をすることができる場所
- ☐ 勉強できる場所
- ☐ スポーツ・音楽ができるところ
- ☐ 図書館や芸術にふれられるところ
- ☐ 小中学生が参加・参画できる活動
- ☐ 家や学校にいたくない時に過ごせるスペース
- ☐ 特にない・今で十分
- ☐ その他

16 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を以前から知っていましたか？

ヤングケアラーとは？

本来大人がすることとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の見えない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

☐ 以前から知っていた

☐ 知らなかった

- 17 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、ふつう大人がおこなうような家事や家族の世話をすることをさします。）

☐ いる
☐ いない
☐ 答えたくない

- 18 あなたがお世話をしている人はどなたですか？

☐ お母さん
☐ お父さん
☐ おばあさん
☐ おじいさん
☐ 兄弟姉妹
☐ その他

- 19 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

☐ 学校をやすんでしまう
☐ 遅刻（ちこく）や早退（そうたい）をしてしまう
☐ 宿題など勉強する時間がない
☐ 眠（ねむ）る時間がたりない
☐ 友だちと遊ぶことができない
☐ 習い事ができない
☐ 自分の時間がとれない
☐ 特にない
☐ その他

- 20 お世話をすることに大変（たいへん）さを感じていますか。

☐ 体力の面で大変（たいへん）
☐ 気持ちの面で大変（たいへん）
☐ 時間の余裕（よゆう）がない
☐ 特に大変（たいへん）さは感じていない

- 21 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩み（なやみ）について、誰（だれ）かに相談したことはありますか。

☐ ある
☐ ない
☐ 答えたくない

- 22 あなたが悩んでいることについて、相談したい方はお名前を記入してください。

※名前を書きたくない方は書かなくてもいいです。

※いただいた個人情報は白山市教育委員会事務局からの連絡以外には使用しません。

令和7年度 子どもの権利に関する市民意識調査 （高校生）

白山市では、子どもの権利を「安心して生きる」「守られる」「よりよく育つ」「参加する」の4つにわけ、すべての子どもが幸福にくらせるまちづくりをめざしています。

この調査は、高校生を対象に普段考えていることや生活について答えてもらっています。

1-1 あなたは何年生ですか？

- ☐ 高校1年生
- ☐ 高校2年生
- ☐ 高校3年生

1-2 あなたが住んでいる地域はどこですか？

- ☐ 松任地域
- ☐ 美川地域
- ☐ 鶴来地域
- ☐ 白山ろく地域
- ☐ 白山市以外

2 子どもの権利は、「子どもにとってあたりまえなこと」という意味です。
次の中からあなたが子どもの権利だと思うものをすべて選択してください。

- ☐ 食事をする
- ☐ あたたかいふとんで寝る
- ☐ 家族と過ごす
- ☐ ほっとできるところがある
- ☐ 友だちと遊ぶ
- ☐ 勉強する
- ☐ 地域の行事に参加する
- ☐ 思っていることを言う

3 あなたは子どもにも「権利があること」を知っていますか？

- ☐ 知っている
- ☐ だいたい知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ 知らない

4 あなたは子どもの権利の内容について知っていますか。
次の中から知っている権利をすべて選択してください。

- ☐ 安心して生きる権利
- ☐ 守られる権利
- ☐ よりよく育つ権利
- ☐ 参加する権利 ※意見を言ったり、社会に参加すること
- ☐ 知らない

5 あなたは「白山市子ども総合相談室」について知っていますか。



- ☐ 〇知っていて利用したことがある
- ☐ 〇知っているが利用したことはない
- ☐ 〇名前は聞いたことがある
- ☐ 〇聞いたことがない

6 あなたが今、楽しんでいること、がんばっていることは何ですか？

- ☐ □勉強
- ☐ □趣味（読書、音楽、工作、料理など）
- ☐ □クラブ活動、部活動
- ☐ □習いごと（水泳、ピアノ、習字など）
- ☐ □友だちとの遊び
- ☐ □動画、SNS、オンラインゲーム
- ☐ □楽しんでいること、がんばっていることはない
- ☐ □その他

7 あなたにとって、困ったり、悩んだりしたとき、相談できる人はだれですか？

- ☐ □親
- ☐ □兄弟姉妹
- ☐ □祖父母
- ☐ □友だち
- ☐ □学校内の先生、スクールカウンセラー
- ☐ □学習塾や習いごとの先生
- ☐ □電話相談など話を聞いてくれる相談員
- ☐ □相談できる人はいない
- ☐ □その他

8 あなたにとって、困ったり、悩んだりしたとき、どのような方法で相談しますか？

- ☐ □直接顔を合わせて話す
- ☐ □メール、SNS
- ☐ □電話
- ☐ □手紙、はがき
- ☐ □誰にも相談しない
- ☐ □相談できる人はいない

- 9 あなたは自分のことについてどう思いますか？
それぞれ 1 つだけ選択してください。

◆毎日の生活が楽しい
◆だれかのために何かをしてあげたい
◆社会に役立つことをしたい
◆自分は親やまわりの大人から大切にされている
◆自分にはよいところがある

○そう思う
○まあそう思う
○あまりそう思わない
○そう思わない

- 10 あなたは放課後や休日に自分にとって居場所だと感じられる、落ち着いて居心地よくいられる場所がありますか？

☐自分の部屋
☐サークルなど地域の居場所
☐友だちの家
☐学校
☐公園などの屋外
☐ショッピングモールやファストフード
☐市の施設（図書館や文化会館など）
☐SNS等を通じたゲームや交流の場
☐特にない
☐その他

- 11 白山市について、もっと増えたらいいと思う場所や活動は何ですか？

☐友達と話をすることができる場所
☐勉強できる場所
☐スポーツ・音楽ができるところ
☐図書館や芸術にふれられるところ
☐高校生が参加・参画できる活動
☐家や学校にいたくない時に過ごせるスペース
☐特にない・今で十分
☐その他

12 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を以前から知っていましたか？

ヤングケアラーとは？

本来大人がすることとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の見えない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

☐以前から知っていた

☐知らなかった

13 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、ふつう大人がおこなうような家事や家族の世話のことをさします。）

☐いる

☐いない

☐答えたくない

14 あなたがお世話をしている人はどなたですか？

☐母

☐父

☐祖母

☐祖父

☐兄弟姉妹

☐その他

15 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

☐学校をやすんでしまう

☐遅刻や早退をしてしまう

☐宿題など勉強する時間がない

☐眠る時間がたりない

☐友だちと遊ぶことができない

☐習い事ができない

☐自分の時間がとれない

☐特にない

☐その他

- 16 お世話をすることに大変さを感じていますか。
- ☐ 体力の面で大変
 - ☐ 気持ちの面で大変
 - ☐ 時間の余裕がない
 - ☐ 特に大変さは感じていない
- 17 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて、誰かに相談したことはありますか。
- ☐ ある
 - ☐ ない
 - ☐ 答えたくない
- 18 あなたが悩んでいることについて、連絡が必要ですか？
- ☐ 必要だ
 - ☐ 必要ではない
- 19 あなたが悩んでいることで連絡が必要な方は、お名前や連絡先等を記入してください。
※いただいた個人情報は白山市教育委員会事務局からの連絡以外には使用しません。

令和7年度 子どもの権利に関する市民意識調査 （乳幼児保護者）

子どもの権利に関して、皆さまの意識やお子さんの現状について回答してください。

この調査で聞いている「お子さん」は乳幼児です。兄弟姉妹がいる場合は、小学校入学前のお子さんで、年が一番上のお子さんについて回答してください。

- 1 あなたのお子さんの年齢を教えてください。

☐ 0, 1 歳
☐ 2, 3 歳
☐ 4, 5, 6 歳

- 2 お子さんから見て、あなたの続柄は何ですか。

☐ 母
☐ 父
☐ 祖母
☐ 祖父
☐ その他

- 3 子どもの権利は、「子どもにとってあたりまえなこと」という意味です。
次のうち、あなたが子どもの権利だと思うものはどれですか？

☐ 食事をする
☐ あたたかいふとんでねる
☐ 家族と過ごす
☐ ほっとできるところがある
☐ 友だちと遊ぶ
☐ 勉強する
☐ 地域の行事に参加する
☐ 思っていることを言う

- 4 あなたは大人と同じように「子どもにも権利がある」ことを知っていますか。

☐ 知っている
☐ だいたい知っている
☐ 聞いたことがある
☐ 知らない

- 5 「白山市子どもの権利条例」で定められている4つの権利のうち、あなたが知っている権利をすべて選んでください。

☐ 安心して生きる権利
☐ 守られる権利
☐ よりよく育つ権利
☐ 参加する権利
☐ 知らない

6 あなたは「白山市子ども総合相談室」について知っていますか。



- ☐ 〇知っていて利用したことがある
- ☐ 〇知っているが利用したことはない
- ☐ 〇名前は聞いたことがある
- ☐ 〇聞いたことがない

7 子どもの権利に関して、ご意見等があれば記入してください。

令和7年度 子どもの権利に関する市民意識調査 （小中学生保護者）

子どもの権利に関して、皆さまの意識やお子さんの現状について回答してください。

この調査で聞いている「お子さん」は小中学生です。兄弟姉妹がいる場合は、一番上の学年のお子さんについて回答してください。

1 あなたのお子さんの学年を教えてください。

- ☐ 中学3年生
- ☐ 中学2年生
- ☐ 中学1年生
- ☐ 小学5, 6年生
- ☐ 小学3, 4年生
- ☐ 小学1, 2年生

2 お子さんから見て、あなたの続柄は何ですか。

- ☐ 母
- ☐ 父
- ☐ 祖母
- ☐ 祖父
- ☐ その他

3 子どもの権利は、「子どもにとってあたりまえなこと」という意味です。
次のうち、あなたが子どもの権利だと思うものはどれですか？

- ☐ 食事をする
- ☐ あたたかいふとんでねる
- ☐ 家族と過ごす
- ☐ ほっとできるところがある
- ☐ 友だちと遊ぶ
- ☐ 勉強する
- ☐ 地域の行事に参加する
- ☐ 思っていることを言う

4 あなたは大人と同じように「子どもにも権利がある」ことを知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ だいたい知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ 知らない

5 「白山市子どもの権利条例」で定められている4つの権利のうち、あなたが知っている権利をすべて選んでください。

- ☐ 安心して生きる権利
- ☐ 守られる権利
- ☐ よりよく育つ権利
- ☐ 参加する権利
- ☐ 知らない

6 あなたは「白山市子ども総合相談室」について知っていますか。



- ☐ 〇知っていて利用したことがある
- ☐ 〇知っているが利用したことはない
- ☐ 〇名前は聞いたことがある
- ☐ 〇聞いたことがない

7 お子さんが今、楽しんでいること、頑張っていることは何だと思いますか。

- ☐ □勉強
- ☐ □趣味（読書、音楽、工作、料理など）
- ☐ □クラブ活動、部活動
- ☐ □習いごと（水泳、ピアノ、習字など）
- ☐ □友だちとの遊び
- ☐ □動画、SNS、ゲーム
- ☐ □その他
- ☐ □楽しんでいること、頑張っていることはない

8 お子さんは自分自身のことをどのように思っているとお考えですか？
それぞれ1つだけ選択してください。

- ◆ 毎日の生活が楽しい
- ◆ 誰かのために何かをしてあげたい
- ◆ 社会に役立つことをしたい
- ◆ 自分は親やまわりの大人から大切にされている
- ◆ 自分にはよいところがある
- ☐ 〇 そう思う
- ☐ 〇 まあそう思う
- ☐ 〇 あまりそう思わない
- ☐ 〇 そう思わない

9 子どもの権利に関して、ご意見等あれば記入してください。

令和7年度
白山市子どもの権利に関する
市民意識調査の結果について

〒924-8688 白山市倉光二丁目1番地
白山市教育委員会事務局生涯学習課
電 話 (076) 274-9572
FAX (076) 274-1665
mail syogai@city.hakusan.lg.jp